



令和 5 年 度

# 企業局の事業概要

岡山県企業局

# はじめに

岡山県企業局では、県内三大河川をはじめとする豊かな水の恵みなどを生かした電気事業と工業用水道事業の健全な経営を通じて、県民生活の向上と地域産業の振興への貢献による「生き生き岡山」の実現を目指しております。

近年は、新型コロナウイルス感染症による業務への影響を最小限に抑えるため、企業局における職場環境の確保など、業務継続のための体制確保を推進してまいりました。引き続き、公営企業に対する信頼を確保し、県民の皆様や企業にとってのライフラインを守るため、持続的な事業運営に努めてまいります。

電気事業については、旭川発電所（第一・第二）、新見発電所、加茂発電所など県内18か所の発電所において、純国産でクリーンなエネルギーを活用した水力発電を実施するとともに、岡山空港太陽光発電所の運営も行っています。また、再生可能エネルギーを一層推進する観点から、平成29年10月に倉見発電所のリニューアルを完成させたところであり、引き続き新たな水力発電所の建設可能性等について調査・研究を行い、効果的・効率的な発電事業の推進に取り組んでまいります。

国における電力システム改革が進められる中、電気事業を取り巻く環境が大きく変化していますが、今後も、公営企業として引き続き適切な事業運営に努めてまいります。

一方、工業用水道事業では、水島・児島、笠岡、勝央の各地区で、企業の生産活動に欠かせない工業用水を安定的に供給しています。水島地区については、企業の立地が進む玉島ハーバーアイランドにおいて、平成28年12月から給水を開始しており、本県経済の特徴である「ものづくり」産業の発展に寄与してまいりたいと考えております。

工業用水道施設の震災対策については、安定的な給水の実現と南海トラフ等の巨大地震への対応のため、施設の総点検を行うとともに、施設の耐震補強、配水ルートの上重化等、施設の状況に合わせた震災対策を引き続き集中的に実施してまいります。

また、両事業を取り巻く経営環境が大きく変化する中、公営企業としての公共性と経済性を維持しながら、健全で効率的な事業運営を実現していくための基本方針と具体的な取組を明らかにした「岡山県企業局経営計画2019～2028」を平成31年1月に策定しました。本計画に基づき、上記をはじめとする各種取組を着実に実施するとともに、令和2年度からは電力会社と連携して「おかやま水力電気活用プラン」を提供するなど、引き続き、地域貢献はもとより、公営企業として岡山県の経済発展と県民福祉の向上に寄与してまいります。

岡山県企業局は本年発足から60周年を迎えます。多年にわたる県民の皆様、関係事業者の皆様の御理解、御支援に深く感謝するとともに、常に業務に対する改善の意識を持ちながら、これまで以上に効率的な運営とサービス水準の向上に努めてまいります。

ここに、企業局が取り組む事業の一端をとりまとめましたので、ご覧いただけたら幸いです。

令和5年5月

岡山県公営企業管理者 片山 誠一



# 目 次

○ 組 織 図 .....	1
○ 電 気 事 業 .....	2
○ 工 業 用 水 道 事 業 .....	16
○ 共 通 事 項 .....	34
○ 当 初 予 算 及 び 貸 借 対 照 表 .....	41

## 【参考資料】

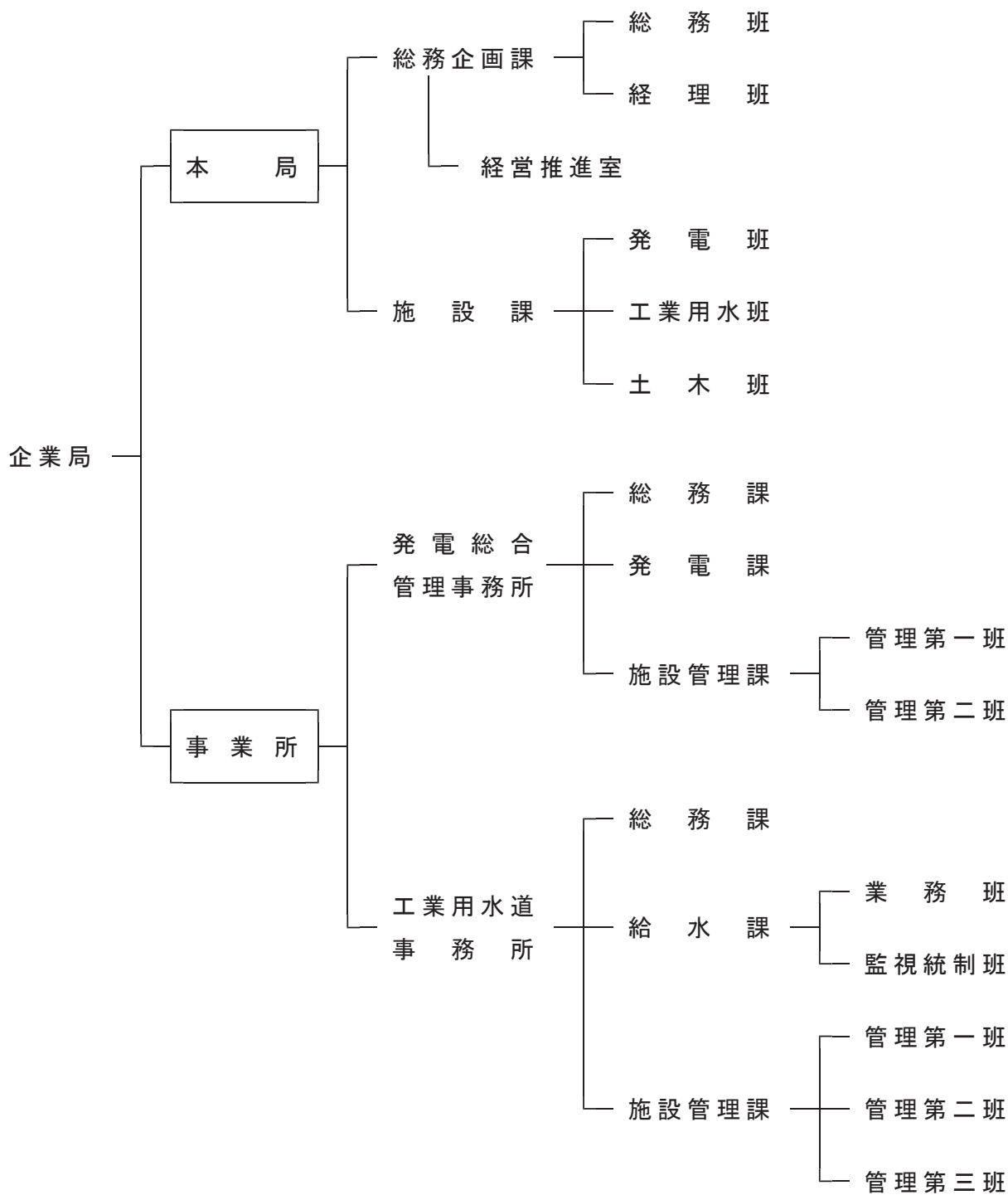
機 関 等 の 所 在 地 .....	50
企 業 局 の 歩 み .....	52
企 業 局 事 業 一 覧 .....	57





# 組織図

[職員数 110名 (公営企業管理者含む)]



## 電気事業

### (県民生活や産業活動の重要なエネルギー)

#### 1 事業概要

岡山県企業局では、県営電気事業として、県下三大河川を利用する水力発電と「晴れの国おかやま」の特長を生かした太陽光発電を行っています。

岡山県営電気事業は、旭川水系において、昭和26年から洪水調節、各種用水の確保及び発電を目的として旭川ダムが建設されたことに始まり、昭和29年5月に旭川第一発電所を、また同年11月には旭川第二発電所を完成させました。当時、県下の電力事情は、非常にひっ迫した情勢にありましたが、発電所の完成によって大いに緩和され、今日の工業県としての基礎と県営電気事業の基盤が形成されました。

高梁川水系においては、水島臨海工業地帯への工業用水の供給、洪水調整及び発電を目的として、昭和34年から同水系西川に河本ダムの建設が進められ、昭和38年10月に新見発電所を完成させました。

吉井川水系においては、昭和38年に加茂川総合開発事業の一環として、同水系倉見川に農業防災、農業用水の確保及び発電を目的とした黒木ダムの建設が進められ、昭和43年3月に加茂発電所を完成させました。

そして、昭和48年のオイルショック以降は、原油価格の急騰により、自然の循環性を持った純国産でクリーンなエネルギーとして水力が再び見直されるようになり、全国に先駆けて小水力発電の開発に積極的に取り組みました。昭和54年3月には黒木えん堤直下に黒木えん堤発電所を完成させたのを始め、昭和57年3月には香々美ダム及び久賀ダム（いずれも農業防災、農業用水の確保）にそれぞれ越畑発電所及び久賀発電所を、昭和58年11月には、岡山県企業局として初めての水路式発電所となる倉見発電所を、昭和59年3月には黒木ダムへ注ぐ阿波支水路を利用した滝ノ谷発電所を、昭和59年6月及び昭和61年10月には既存の砂防えん堤を利用した梶並発電所及び阿波発電所を完成させました。また、平成3年5月には、公営電気事業では全国初のゴム堰を利用した寄水発電所を、平成7年3月には津川ダム直下に津川発電所を、平成9年3月にはゴム堰を利用した大町発電所を、平成10年8月には千屋ダム直下に千屋発電所を、平成13年3月にはゴム堰を利用した真加子発電所を、平成17年3月には国土交通省が建設した苦田ダム直下に苦田発電所を、平成18年3月には三室川ダム直下に三室発電所を完成させました。

平成21年4月には、電力自由化に対応する効率的な経営体制を確立するため、すべての発電所の運転・監視制御と保守業務を集約化した発電総合管理事務所の運用を開始しました。

また、再生可能エネルギー推進の取り組みとして、平成25年12月には岡山空港南側の斜面を利用した岡山空港太陽光発電所を、平成29年10月には倉見発電所のリニューアルを完成させました。平成30年度には、阿波発電所のリニューアル工事に着手しました。

今後とも、既設発電所の円滑な運営はもとより、小水力発電の新規開発の調査や既設発電所のリニューアルを進め、地球環境にやさしいローカルクリーンエネルギーの安定供給に努めます。

## 2 経営状況

営業開始以来、常に経営の合理化を図るとともに、適正な料金の確保、設備の効率的運用等に努め、安定した黒字経営を続けています。

なお、黒字経営から生じる利益剰余金については、資本的支出としての発電所の建設事業、施設改良や起債の償還に要する経費などに充てられています。

### (1) 供給電力量の推移

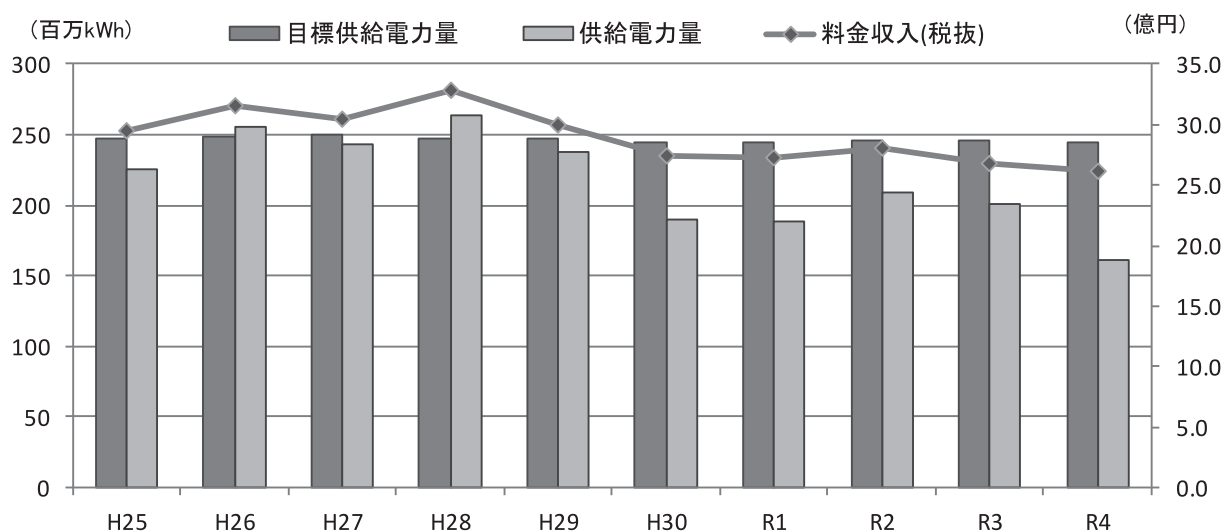
#### ① 過去3年間の供給電力量

(単位：千kWh，%)

発電所	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
	供給電力量	目標達成率 (実績/目標)	供給電力量	目標達成率 (実績/目標)	供給電力量	目標達成率 (実績/目標)	
水力	旭川	80,605	82.6%	79,436	82.7%	52,727	54.9%
	新見	25,937	83.0%	22,223	72.6%	18,501	60.5%
	加茂	41,729	83.8%	40,799	84.0%	37,459	77.1%
	小水力	56,267	87.6%	54,404	83.9%	47,894	73.8%
	小計	204,538	84.2%	196,862	82.0%	156,581	65.2%
太陽光	岡山空港	4,735	131.5%	4,478	124.4%	4,545	126.2%
合計		209,273	84.9%	201,340	82.6%	161,126	66.1%

注) 小水力の供給電力量は、黒木えん堤、越畑、久賀、倉見、滝ノ谷、梶並、阿波、寄水、津川、大町、千屋、真加子、苫田、三室発電所の合計である。

#### ② 供給電力量と料金収入の推移 (過去10年間)



※水力発電及び岡山空港太陽光発電の合計値

## (2) 事業収支及び資本的収支の状況

### ①事業収支の状況

(単位：千円)

区分 \ 年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (見込)
事業収入	2,853,498	2,775,930	2,882,294	2,749,323	2,646,678
うち料金収入	2,735,390	2,731,896	2,811,891	2,675,671	2,612,501
事業費用	2,197,027	2,300,751	2,253,486	2,199,258	2,047,297
当年度純利益	656,471	475,179	628,808	550,065	599,381

注) 消費税及び地方消費税を除く。

### ②資本的収支の状況

(単位：千円)

区分 \ 年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (見込)
資本的収入	517,599	1,702,914	700,000	213,758	3,280
資本的支出	1,155,223	2,142,408	1,049,241	1,615,242	902,013
資本的収支差引	△ 637,624	△ 439,494	△ 349,241	△ 1,401,484	△ 898,733

注) 消費税及び地方消費税を除く。

### 3 発電所の概要

(単位, 出力 : kW, 電力量 : 千 kWh)

区分	発電所名称	最大出力	年間目標 供給電力量	型式	水系
水力 発電 所	旭川第一	18,700	96,059	ダム式	旭川
	旭川第二	3,700		ダム水路式	
	新見	10,900	30,592	〃	高梁川
	加茂	14,000	48,576	〃	吉井川
	黒木えん堤	100	518	ダム式	
	越畑	200	863	〃	
	久賀	190	1,061	〃	
	倉見	660	3,100	水路式	
	滝ノ谷	120	293	〃	
	梶並	180	690	〃	
	阿波	360	238	〃	
	寄水	1,500	6,661	〃	旭川
	津川	360	1,678	ダム式	吉井川
	大町	1,200	4,626	水路式	
	千屋	3,000	13,289	ダム式	高梁川
	真加子	1,200	4,818	水路式	旭川
	苦田	4,600	22,884	ダム式	吉井川
	三室	460	2,574	〃	高梁川
水力計	61,430	238,520	—	—	
岡山空港太陽光		3,500	3,600	—	—
合計		64,930	242,120	—	—

注1) 最大出力 : 当該発電所で発電できる最大の出力をいう。  
kW、kWh : Wとは、電気エネルギーを使って仕事をする能力の大きさ  
(1Vの電圧で1Aの電流が流れている時の電力が1W)  
Whとは、一定の電力(W)で一定時間(h)仕事をしたときの電気の量  
(1Wで1時間の仕事量が1Wh)  
1kW=1,000W、1kWh=1,000Wh  
ダム式 : ダムの貯水を利用して、その落差により発電する方式  
水路式 : 河川から取水して水槽に導水し、そこからの落差を利用して発電する方式  
ダム水路式 : ダム式と水路式を結合したもので、ダムの貯水と導水路の双方による落差を利用して発電する方式

## 4 施設の概要

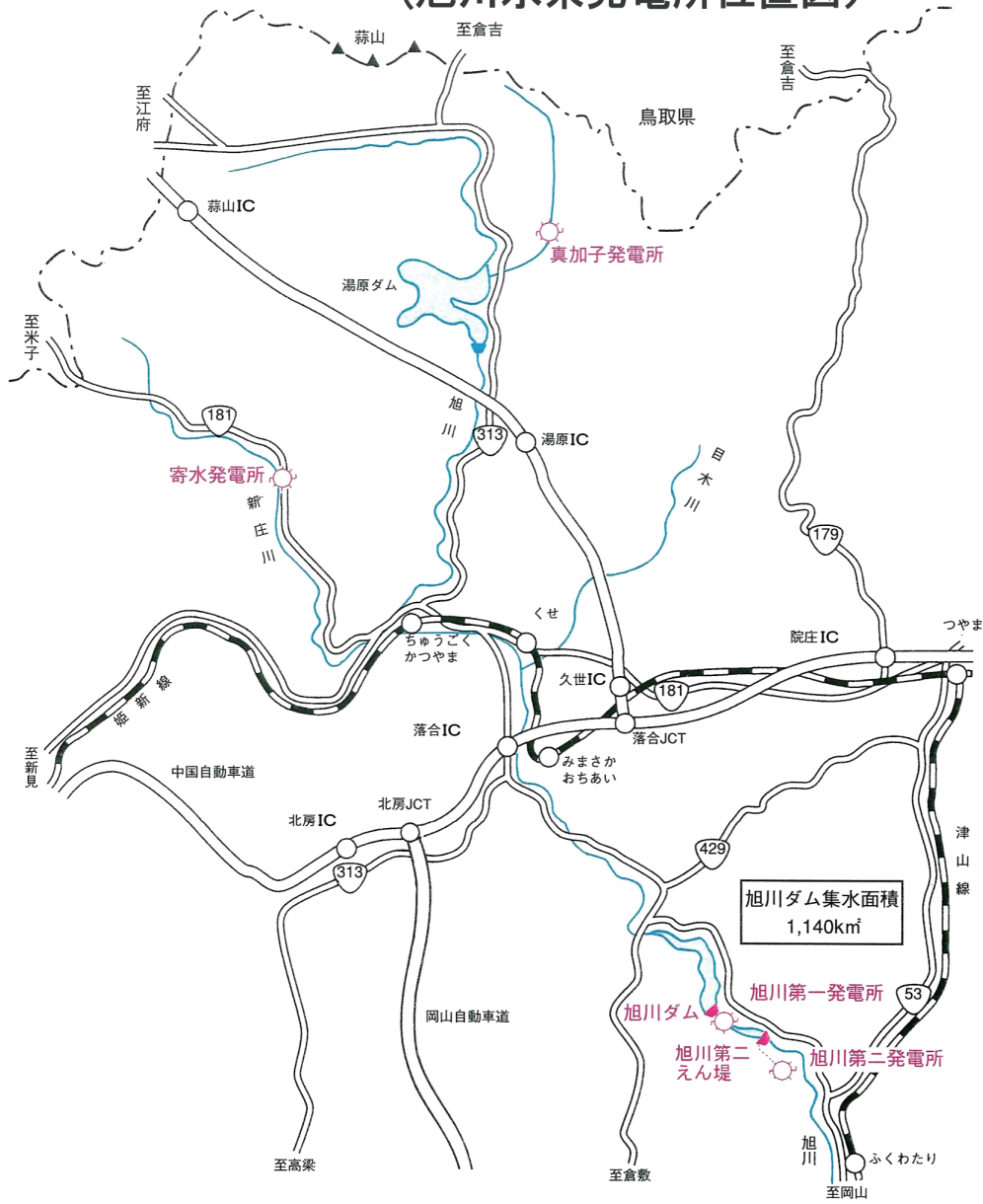
### (1) 旭川発電所

区 分	旭川第一発電所	旭川第二発電所	
河 川 名	旭川水系旭川		
工 事 着 工	昭和26年1月	昭和28年4月	
運 転 開 始	昭和29年2月（一部運転開始） 昭和29年5月（全部運転開始）	昭和29年11月	
使 用 水 量	最大60.00m <sup>3</sup> /s 常時13.41m <sup>3</sup> /s	最大45.00m <sup>3</sup> /s 常時14.55m <sup>3</sup> /s	
有 効 落 差	最大36.40m 常時32.45m	最大9.95m 常時10.05m	
発 電 力	最大18,700kW 常時2,800kW	最大3,700kW 常時1,100kW	
年間目標供給電力量	96,059kWh		
総 貯 水 容 量	57,382千m <sup>3</sup>	710千m <sup>3</sup>	
有 効 貯 水 容 量	発電33,538千m <sup>3</sup> 都市用水2,330千m <sup>3</sup> 洪水調節23,000千m <sup>3</sup> 不特定49,442千m <sup>3</sup>	発電594千m <sup>3</sup>	
ダ ム ・ 堰	高さ45.00m 長さ212.00m	高さ13.00m 長さ147.00m	
	ラジアルゲート 9.3m×12.0m×10門	ローラーゲート (8.3m×3.3m)×18.0m×6門	
導 水 路		馬てい型圧力ずい道 高さ4.60m 延長1,326.80m	
水 槽		差動調圧槽 内径32.0m 高さ12.80m	
水 圧 管 路	2条 内径4.00m～3.00m 延長69.38m		
発 電 所 の 建 物	鉄筋コンクリート造 間口38.0m 奥行23.0m 地上3階 地下2階	鉄筋コンクリート造 間口25.0m 奥行15.0m 地上1階 地下2階	
水 車	種 類	立軸フランシス水車	立軸カプラン水車
	出力・回転数	1号機 9,820kW 200min <sup>-1</sup> 2号機 11,500kW 200min <sup>-1</sup>	4,000kW 163.5min <sup>-1</sup>
	メーカー・台数	1号機 日立三菱水力 2号機 新三菱重工業	電業社 1台
発 電 機	種 類	立軸三相同期発電機	同左
	容量・電圧	12,500kVA 11,000V	4,500kVA 11,000V
	力率・回転数	85% 200min <sup>-1</sup>	85% 163.5min <sup>-1</sup>
	メーカー・台数	三菱電機 2台	明電舎 1台
主 要 変 圧 器	型 式	三相油入自冷式	
	容 量	30,000kVA	
	電 圧	一次10.5kV 二次110kV	
	メーカー・台数	三菱電機 1台	

事業費（建設時）	3,500,000千円	〔ダム費負担金1,046,500千円（負担率42.00%） 電気専用施設費2,453,500千円〕
----------	-------------	--



# (旭川水系発電所位置図)



ダム直下の第一発電所



逆調整池を利用した第二発電所



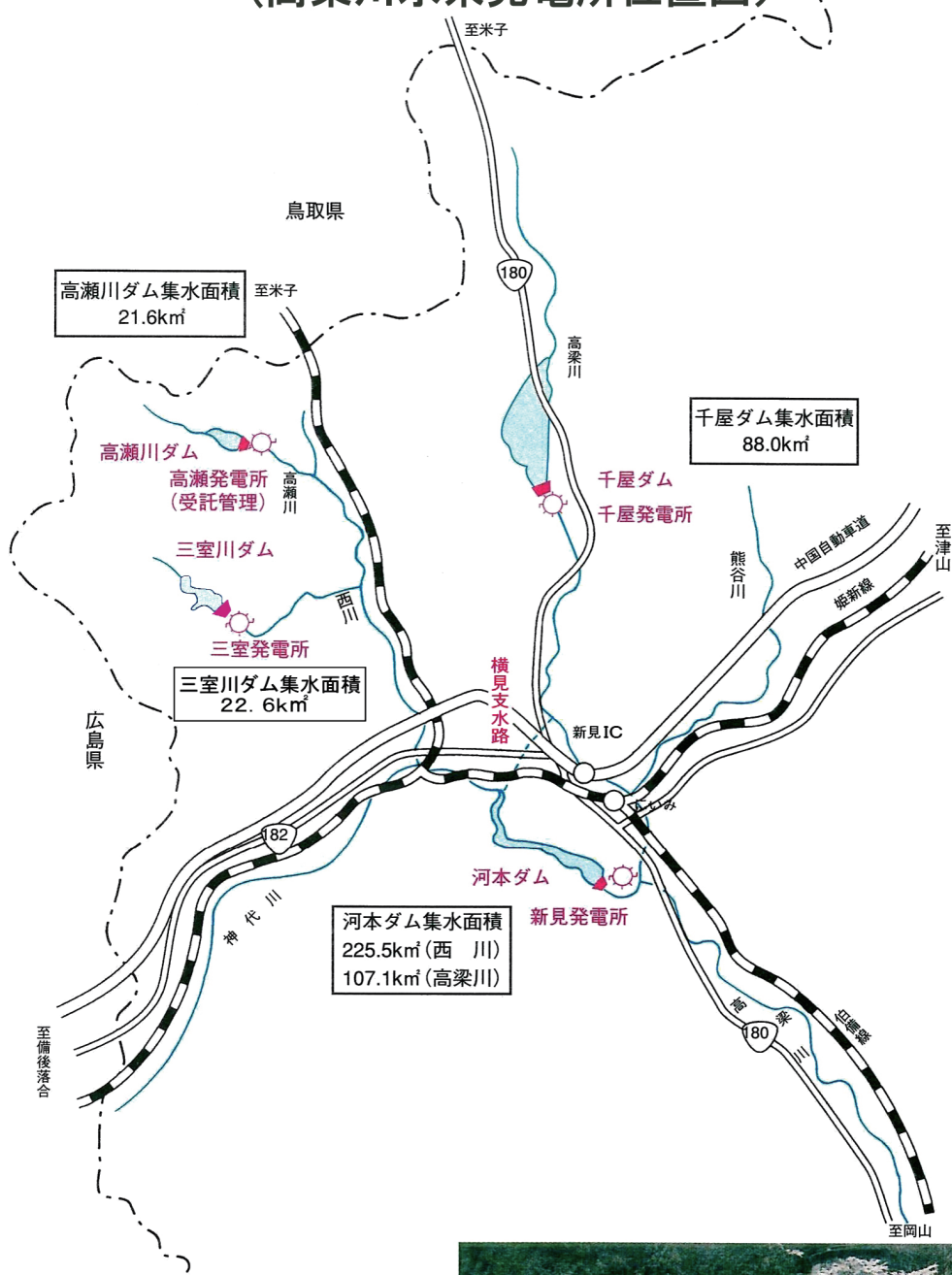


(2) 新見発電所

河川名	高梁川水系西川及び高梁川	
工事着工	昭和36年4月	
運転開始	昭和38年9月（一部運転開始） 昭和38年10月（全部運転開始）	
使用水量	最大 24.00m <sup>3</sup> /s 常時 3.49m <sup>3</sup> /s	
有効落差	最大 54.85m 常時 48.72m	
発電力	最大 10,900kW 常時 0kW	
年間目標供給電力量	30,592千kWh	
総貯水容量	17,350千m <sup>3</sup>	
有効貯水容量	発電11,100千m <sup>3</sup> 工業用水6,600千m <sup>3</sup> 洪水調節5,000千m <sup>3</sup>	
ダム・堰	河本ダム	高さ60.00m 長さ260.00m ラジアルゲート10.3m×12.0m×2門
	横見取水堰	高さ3.50m 長さ41.30m 起伏ゲート                      ローラーゲート 1.4m×26.0m×1門      2.27m×2.1m×1門
導水路	金付水路	円型圧力ずい道 内径3.5m 延長662.48m
	横見支水路	蓋きよ及び欠円型無圧ずい道 内径1.66m～2.1m 延長3,746.3m
水	槽	差動調圧水槽 内径 主槽部12.5m 上槽部15.5m 高さ 主槽部20.8m 上槽部6.0m
水	圧管路	1条 内径3.20m～2.40m 延長120.52m
発電所の建物		鉄筋コンクリート造 間口18m 奥行20m 地上2階 地下4階
水車	種類	立軸カプラン水車
	出力・回転数	11,500kW      400min <sup>-1</sup>
	メーカー・台数	東芝      1台
発電機	種類	立軸三相同期発電機
	容量・電圧	13,000kVA      11,000V
	力率・回転数	85%      400min <sup>-1</sup>
	メーカー・台数	東芝      1台
主要	型式	三相油入自冷式
	容量	13,000kVA
変圧器	電圧	一次10.5kV 二次66kV
	メーカー・台数	東芝      1台

事業費（建設時）	1,629,873千円	（ダム費負担金645,128千円（負担率26.71%） 電気専用施設費984,745千円）
----------	-------------	--

# (高梁川水系発電所位置図)



貯水池を総合的に運用し、取水量と落差の変化に対応した新見発電所

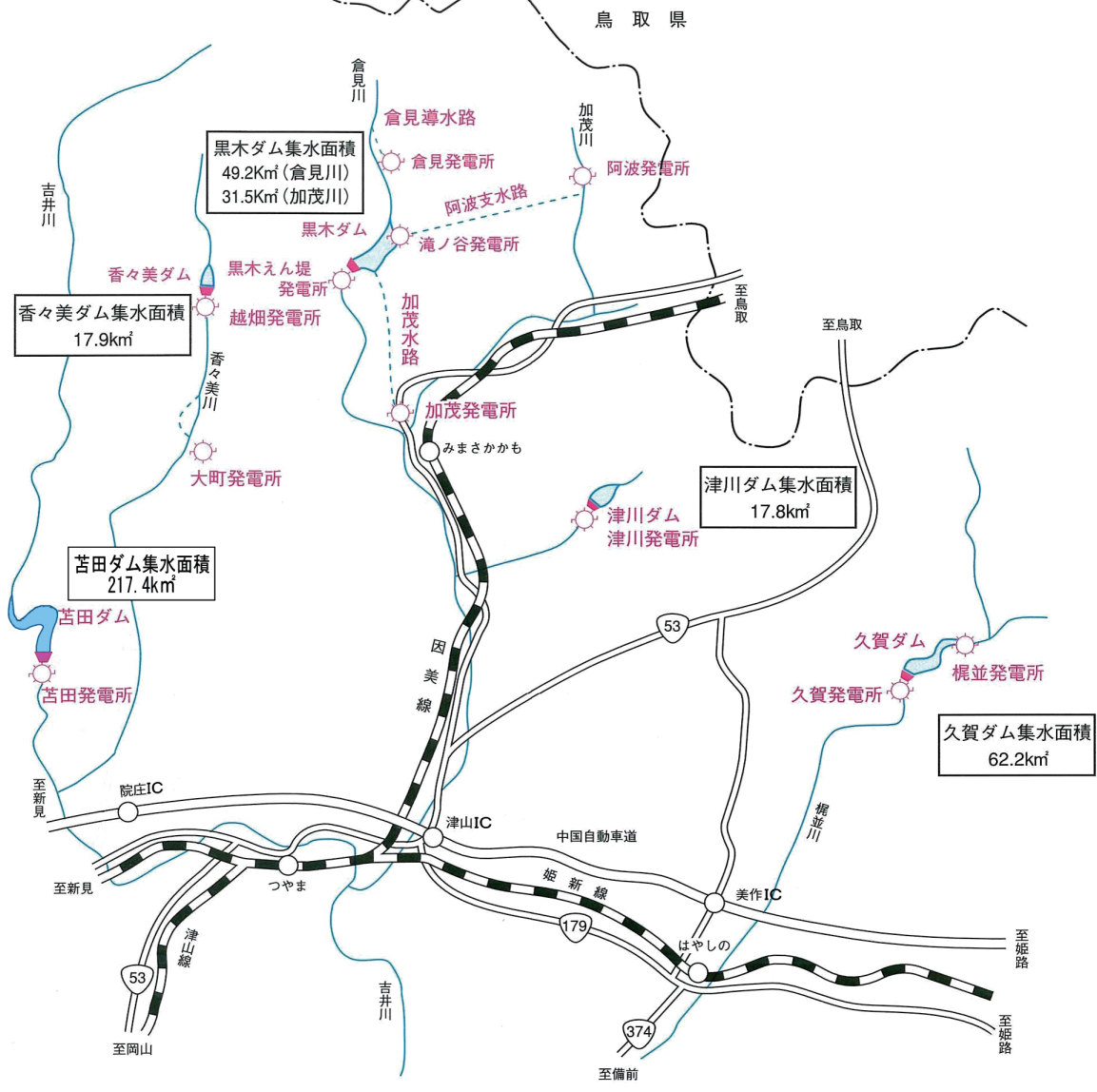


(3) 加茂発電所

河川名	吉井川水系倉見川及び加茂川	
工事着工	昭和39年4月	
運転開始	昭和42年1月	
使用水量	最大 9.00m <sup>3</sup> /s 常時2.40m <sup>3</sup> /s	
有効落差	最大 189.20m 常時187.20m	
発電力	最大 14,000kW 常時2,300kW	
年間目標供給電力量	48,576kWh	
総貯水容量	6,000千m <sup>3</sup>	
有効貯水容量	発電5,075千m <sup>3</sup> 洪水調節2,850千m <sup>3</sup> かんがい2,225千m <sup>3</sup>	
ダム・堰	黒木ダム	高さ53.0m 長さ193.0m ラジアルゲート4.9m×7.0m×3門
	阿波取水堰	高さ4.9m 長さ25.0m ローラーゲート1.9m×3.0m×1門
導水路	加茂水路	円型圧力ずい道 内径2.5m 延長4,240.7m
	阿波支水路	開きよ及び馬てい型無圧ずい道 高さ2.08m 延長開水路574m 無圧ずい道5,740m
水	槽	差動調圧水槽 高さ37.50m 内径10.0m ライザー径2.0m
水	圧管路	1条 内径1.90m~1.40m 延長675.75m
発電所の建物 鉄筋コンクリート造 間口18m 奥行20m 地上2階 地下3階		
水車	種類	立軸フランスス水車
	出力・回転数	15,000kW 600min <sup>-1</sup>
	メーカー・台数	川崎電機製造 1台
発電機	種類	立軸三相同期発電機
	容量・電圧	16,000kVA 11,000V
	力率・回転数	90% 600min <sup>-1</sup>
	メーカー・台数	川崎電機製造 1台
主要	型式	三相油入自冷式
	容量	16,000kVA
変圧器	電圧	一次10.5kV 二次66kV
	メーカー・台数	富士電機 1台

事業費（建設時）	2,349,152千円	（ダム費負担金294,190千円（負担率17.08%） 電気専用施設費2,054,962千円）
----------	-------------	--

# (吉井川水系発電所位置図)



落差が約190mある  
高落差の加茂発電所



#### (4) 小水力発電所

発電所名		黒木えん堤	越 畑	久 賀	倉 見※	滝 ノ 谷
河 川 名		吉井川水系倉見川	吉井川水系香々美川	吉井川水系梶並川	吉井川水系倉見川	吉井川水系加茂川
工 事 着 工		昭和53年10月	昭和56年6月	昭和56年6月	昭和57年6月	昭和58年10月
運 転 開 始		昭和54年4月	昭和57年4月	昭和57年4月	昭和58年11月	昭和59年4月
使 用 量	最 大	0.35m <sup>3</sup> /s	1.20m <sup>3</sup> /s	1.20m <sup>3</sup> /s	1.07m <sup>3</sup> /s	1.10m <sup>3</sup> /s
	常 時	0.20m <sup>3</sup> /s	0.16m <sup>3</sup> /s	0.36m <sup>3</sup> /s	0.22m <sup>3</sup> /s	0.05m <sup>3</sup> /s
有 効 差	最 大	44.00m	24.50m	21.00m	77.57m	15.32m
	常 時	33.51m	22.35m	18.65m	78.92m	15.48m
発 電 力	最 大	100kW	200kW	190kW	660kW	120kW
	常 時	41kW	0kW	35kW	89kW	0kW
年間目標供給電力量		518千kWh	863千kWh	1,061千kWh	3,100千kWh	293千kWh
ダム・堰	高 さ	53.00m	39.00m	36.50m	4.20m	4.90m
	長 さ	193.00m	131.00m	171.00m	41.00m	25.00m
	取水塔	表面取水方式	表面取水方式	表面取水方式	—	—
水 管 圧 路	条 数	1条	1条	1条	1条	1条
	内 径	0.44~0.45m	0.50~0.80m	0.80~1.20m	0.80m	0.90m
	延 長	69.17m	113.43m	110.52m	153.84m	3.60m
発電所の建物		地下式	半地下式	半地下式	半地下式	—
水 車	種 類	横軸フランシス	横軸クロスフロー	横軸フランシス	横軸フランシス	立軸チューブラ
	出 力	120kW	220kW	210kW	719kW	130kW
	台 数	1台	1台	1台	1台	1台
発 電 機	種 類	三相誘導発電機	三相誘導発電機	三相誘導発電機	三相誘導発電機	三相誘導発電機
	容 量	100kW	200kW	190kW	660kW	120kW
	台 数	1台	1台	1台	1台	1台
事業費(建設時)		60百万円	150百万円	161百万円	641百万円	109百万円

※平成29年10月リニューアル

注) 小水力発電所とは、比較的小規模な発電で、おおむね5,000kW以下の施設をいう。



発電所名		梶並	阿波	寄水	津川	大町
河川名		吉井川水系梶並川	吉井川水系加茂川	旭川水系新庄川	吉井川水系津川川	吉井川水系香々美川
工事着工		昭和58年10月	昭和60年7月	平成2年3月	平成3年11月	平成7年5月
運転開始		昭和59年7月	昭和61年11月	平成3年6月	平成7年4月	平成9年4月
使用水量	最大	2.60m <sup>3</sup> /s	0.85m <sup>3</sup> /s	4.60m <sup>3</sup> /s	1.00m <sup>3</sup> /s	1.80m <sup>3</sup> /s
	常時	0.35m <sup>3</sup> /s	0.18m <sup>3</sup> /s	1.92m <sup>3</sup> /s	0.34m <sup>3</sup> /s	0.39m <sup>3</sup> /s
有落差	最大	9.70m	54.90m	42.00m	46.65m	79.90m
	常時	10.19m	55.87m	42.82m	37.32m	81.29m
発電力	最大	180kW	360kW	1,500kW	360kW	1,200kW
	常時	16kW	42kW	530kW	78kW	180kW
年間目標供給電力量		690千kWh	1,811千kWh	6,661千kWh	1,678千kWh	4,626千kWh
ダム・堰	高さ	(既設砂防えん堤)10.60m	(既設砂防えん堤)14.50m	(ゴムぜき)2.00m	76.00m	(ゴムぜき)2.00m
	長さ	(既設砂防えん堤)58.20m	(既設砂防えん堤)47.80m	27.40m	228.00m	22.00m
	取水塔	—	—	—	表面取水方式	—
水管圧路	条数	1条	1条	1条	1条	1条
	内径	1.20m	0.68~0.70m	1.20~1.45m	0.52~0.80m	0.70~1.00m
	延長	39.80m	106.60m	52.48m	113.54m	137.73m
発電所の建物		地下式	半地下式	半地下式	半地下式	半地下式
水車	種類	横軸フランシス	横軸フランシス	横軸フランシス	横軸フランシス	横軸フランシス
	出力	200kW	380kW	1,600kW	386kW	1,234kW
	台数	1台	1台	1台	1台	1台
発電機	種類	三相誘導発電機	三相誘導発電機	三相同期発電機	三相誘導発電機	三相同期発電機
	容量	180kW	360kW	1,600kVA	360kW	1,230kVA
	台数	1台	1台	1台	1台	1台
事業費(建設時)		201百万円	504百万円	2,108百万円	336百万円	1,906百万円

発電所名		千屋	真加子	苦田	三室	高瀬※
河川名		高梁川水系高梁川	旭川水系下和川	吉井川水系吉井川	高梁川水系三室川	高梁川水系高瀬川
工事着工		平成5年2月	平成11年5月	平成13年1月	平成13年8月	昭和56年7月
運転開始		平成10年8月	平成13年4月	平成17年4月	平成18年4月	昭和57年3月
使用水量	最大	5.50m <sup>3</sup> /s	2.80m <sup>3</sup> /s	17.0m <sup>3</sup> /s	1.10m <sup>3</sup> /s	0.90m <sup>3</sup> /s
	常時	1.63m <sup>3</sup> /s	0.52m <sup>3</sup> /s	5.43m <sup>3</sup> /s	0.34m <sup>3</sup> /s	0.28m <sup>3</sup> /s
有落差	最大	66.30m	54.90m	33.10m	56.20m	43.00m
	常時	49.34m	56.04m	24.50m	42.10m	39.47m
発電力	最大	3,000kW	1,200kW	4,600kW	460kW	280kW
	常時	460kW	0kW	710kW	76kW	58kW
年間目標供給電力量		13,289千kWh	4,818千kWh	22,884千kWh	2,574千kWh	1,664千kWh
ダム・堰	高さ	97.50m	(ゴムぜき)1.90m	74.00m	74.50m	67.00m
	長さ	259.00m	30.90m	225.00m	231.00m	273.60m
	取水塔	表面取水方式	—	表面取水方式	表面取水方式	表面取水方式
水管圧路	条数	1条	1条	1条	1条	1条
	内径	1.10~1.50m	0.75~1.60m	2.20~2.50m	0.60~0.70m	0.80m
	延長	165.06m	101.52m	95.14m	9.527m	122.87m
発電所の建物		半地下式	半地下式	半地下式	地下式	地下式
水車	種類	横軸フランシス	横軸フランシス	立軸フランシス	横軸フランシス	横軸フランシス
	出力	3,090kW	1,310kW	4,830kW	500kW	310kW
	台数	1台	1台	1台	1台	1台
発電機	種類	三相同期発電機	三相同期発電機	三相同期発電機	三相誘導発電機	三相同期発電機
	容量	3,200kVA	1,320kVA	4,900kVA	460kW	310kVA
	台数	1台	1台	1台	1台	1台
事業費(建設時)		1,778百万円	1,784百万円	2,641百万円	520百万円	220百万円

※高瀬発電所については、県土木部から運転・保守管理業務を受託している。

## (5) 岡山空港太陽光発電所

### ①事業の目的

東日本大震災後、再生可能エネルギーの導入による電源の分散化、多様化を推進する国のエネルギー政策を踏まえ、企業局では、「晴れの国おかやま」の特長を生かした再生可能エネルギーの普及拡大を図るため、先導的・啓発的な観点から県有施設へのメガソーラー建設を検討しました。そして、岡山空港南側斜面に太陽光発電所を完成させ、平成25年12月から全面的に運用しています。

岡山空港南側斜面は、広大で南方向に開けており、太陽光発電に適しています。空港施設の本来の用途を妨げず、土地を有効に活用するメガソーラーの設置は全国初となるものです。



### ②施設の概要

項目	諸元
設置場所	岡山市北区日応寺（岡山空港南側斜面）
出力	3,500 kW（1,750 kW × 2 設備）
事業費（建設時）	15億9千万円（税込み）
年間目標供給電力量	3,600千 kWh
主要設備	太陽光パネル : 14,580枚 3,528 kW パワーコンディショナ : 500 kW × 6 台 + 250 kW × 2 台 = 3,500 kW
パネル傾斜角度	27°
設置面積	3.8 ha
工期	平成25年1月から同年12月
制御方法	遠方監視制御方式 発電総合管理事務所（岡山市北区芳賀）から遠方監視制御
運転開始	平成25年8月（一部運用開始） 平成25年12月（全面運用開始）



# 工業用水道事業

## (産業の血液)

### 1 事業概要

岡山県企業局では、県南の水島地域、児島地域及び笠岡地域、並びに県北の勝央地域において工業用水道事業を行っています。

水島工業用水道は、倉敷市水島地区を中心に、岡山県南新産業都市の指定をはじめ、諸施策の推進と相まって、一大重化学工業地帯を形成する石油精製、製鉄、石油化学等の企業に対し工業用水を安定的に供給する目的をもって建設しました。

高梁川総合開発事業による河本ダムを水源として、昭和36年に一部給水を開始し、水島臨海工業地帯における工場の新設、既存工場の設備増設による水需要の拡大に対応するため、新成羽川ダムを水源とする水島第2期及び第3期工業用水道を整備し、第1期、第2期、第3期事業を合わせた給水能力は530,500 m<sup>3</sup>/日となりました。さらに、これを上回る需要が見込まれたため、昭和46年から千屋ダム等を水源とした第4期工業用水道の建設を開始し、合計830,500 m<sup>3</sup>/日の施設能力を整備することとしました。

しかし、その後の経済情勢の変動等により、当初の水需要の減少が見込まれたこと、また、第1期事業について施設の老朽化や河川管理上の制約等により廃止せざるを得なくなったことから、第1期の水源施設等を第4期事業に取り込み、昭和53年10月に、給水能力300,000 m<sup>3</sup>/日の第4期事業（水源施設を除く）を完成させ、第1期事業は昭和54年度末に廃止しました。その後、第4期事業の水源施設である千屋ダムが、平成10年8月に完成し、水島工業用水道の給水能力は、第2期、第3期及び第4期事業を合わせて、708,000 m<sup>3</sup>/日となっています。

また、第4期事業の一環として、児島地区の地元企業に供給する拡張工事を行い、平成2年4月から給水区域を拡大しています。

さらに、新たな企業の立地が進む玉島ハーバーアイランドにおいて施設整備を進め、平成28年12月から給水を開始しました。

笠岡工業用水道は、備後工業整備特別地域の指定を受けて笠岡地区に造成された工業用地と臨海部に立地する企業に工業用水を供給するもので、笠岡工業用水（企業局）、西南上水道用水（岡山県西南水道企業団）、寄島干拓用水（県農林水産部）、笠岡湾干拓用水（中国四国農政局）の共同事業として整備された笠岡共用導水路が昭和47年3月に完成し、昭和47年10月から、笠岡工業用水道第1期事業（33,000 m<sup>3</sup>/日）として給水を開始しました。なお、この共用導水路は、中国四国農政局を事業主体として建設されましたが、施設の維持管理については、現在、企業局が行っています。

その後、茂平地区の工業団地など地元企業からの給水要望に応えるため、第2期事業（3,700 m<sup>3</sup>/日）を昭和60年3月に完成させ、さらに、平成元年度からは、笠岡港（港町地区）工業用

地等へ立地する企業に対して、13,000 m<sup>3</sup>/日を供給する第3期事業に着手し、平成5年3月に完成させました。この結果、笠岡工業用水道の給水能力は、第1期、第2期及び第3期事業を合わせて、49,700 m<sup>3</sup>/日となっています。なお、水島及び笠岡工業用水道施設については、工業用水道事務所（西之浦浄水場）で一元的に管理しています。

勝央工業用水道は、内陸工業団地のモデルケースとして旧地域振興整備公団が建設した勝央中核工業団地に立地する企業の工業用水の需要に対応するため、昭和51年度から事業に着手し、給水能力4,200 m<sup>3</sup>/日の施設を昭和53年度に完成させ、昭和55年4月に給水を開始しました。また、先端技術型企業の立地を図るために建設された新勝央中核工業団地（51.6ha）への企業立地促進のため、平成10年10月から給水区域を拡大しています。

### 工業用水道の概要

区	分	給水（供用）開始	事業費	ダム名	給水能力	給水区域		
工業用水道事業	水島	第2期	S43.4 年月	3,757,434 千円	新成羽川ダム	201,500 m <sup>3</sup> /日	倉敷市	
		第3期	S45.9	3,683,652	〃	206,500	〃	
		第4期	1種	S36.7	4,172,220	河本ダム	122,500	〃
	2種		水島	S50.10	33,445,886	千屋ダム他	157,500	〃
		児島	H2.4	20,000				
	小計（水島）				45,059,192		708,000	
	笠岡	第1期	S47.10	1,687,742	新成羽川ダム	33,000	笠岡市 浅口郡里庄町	
		第2期	S60.4	117,400	〃	3,700	〃	
		第3期	H5.4	2,847,000	〃	13,000	〃	
		小計（笠岡）				4,652,142		49,700
勝央	給水区域拡大	S55.4	757,310	西原ダム	4,200	勝田郡勝央町		
		H10.10	82,010					
合計				50,550,654		761,900		

## 2 震災対策・危機管理

### (1) 工業用水道施設の震災対策

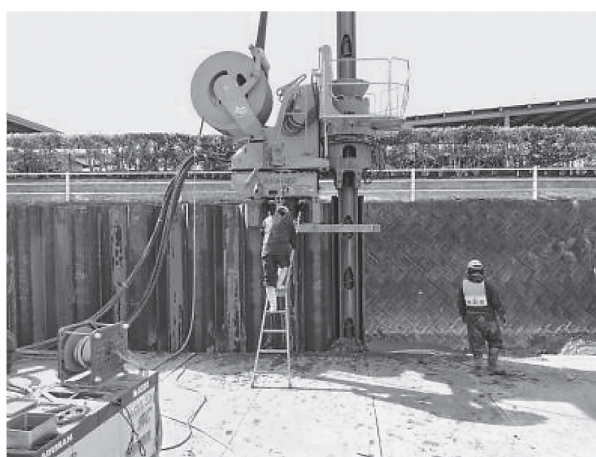
これまでの震災対策としては、建屋は平成17年度に完了、水管橋は平成24年度に水島地区が完了し、埋設管は、老朽化により漏水が懸念される管の更新に併せ、耐震性の向上を図ってきました。

しかし、平成23年3月に発生した東日本大震災の被災地では、地震動や液状化等による不同沈下により、浄水施設や管路が甚大な被害を受けました。そこで、今後は、この被害状況や「岡山県地域防災計画」の見直し等を踏まえ、大規模地震に対する震災対策を老朽化対策と併せ、重点的に取り組むこととしています。

また、笠岡湾干拓土地改良区（中国四国農政局）、岡山県西南水道企業団、県農林水産部及び浅口市から維持管理を受託している笠岡共用導水路については、共同事業者と連携を図りながら、老朽化対策と震災対策について必要な調査・検討を行っています。



液状化により共同溝の浮き上がりと周辺地盤の沈下（80cmの段差）が発生。



耐震化工事例：西之浦浄水場導水管路耐震化工事  
工業用水の導水管布設箇所の液状化対策として、鋼矢板による擁壁を整備

### (2) 危機管理体制の強化

#### ① 塩害対策訓練（高潮対策）

水島工業用水道の取水口は、高梁川河口の潮止堰直上流に位置しており、台風の接近による高潮などにより堰上流に海水が遡上すると通常の水がとれなくなるため、高潮が予想される場合には、事前に堰上部にパネルを設置し、海水遡上の防止に努めています。

海水が遡上し塩害が発生することが予測される場合には、上流の西阿知取水場（予備取水口）から取水し、受水企業に真水を給水することとしており、毎年、高潮発生時期前に塩害対策訓練を行い、塩害時の配水体制（2ルート配水体制）への切替を迅速かつ円滑に実施できるように手順の確認を行っています。





2ルート配水管路の切替作業状況



パネル設置作業状況

## ②震災対策訓練

工業用水では、配水管を網目のように布設しているため、大地震が発生すると管路網を中心に大きな被害を受け、給水に支障が生じることが予想され、迅速な復旧対応が必要となります。このため、南海トラフ巨大地震が発生したと想定し、迅速な防災体制の確立、被害状況の把握、施設の応急復旧及び関係機関との連絡体制の確立等の対応能力向上を目的とした、震災対策訓練を毎年実施しています。



徒歩・自転車による管路点検

## 3 浄水汚泥の有効利用について

浄水汚泥（浄水ケーキ）は、工業用水の浄水過程で発生する泥土を圧縮脱水したもので、かつては産業廃棄物として最終処分場での埋立処理を行っていました。

しかし、発生量が年間千数百トンになることから、その有効利用を研究した結果、農業試験場での育成試験や成分分析では、有害成分もなく、保水性・通気性において優れていることから、昭和62年から園芸用土として一般の方に販売を開始しました。

さらに利用の拡大を図ることを目指し、浄水ケーキを取り扱いしやすい大きさ（直径15mm程度）に加工するための調粒プラントを西之浦浄水場と鶴新田浄水場に整備し、利用目的に応じた原形、調粒（バラ、袋詰）の販売を行っています。

なお、この浄水ケーキは平成15年3月に岡山県エコ製品に認定されています。

## 4 経営状況

営業開始当初は、企業立地の遅れなどから給水量が伸び悩み、赤字経営を余儀なくされていましたが、昭和40年度以降は好調な需要の伸びにより、昭和42年度に累積赤字を解消して黒字経営に転換しました。その後も健全経営に努め、比較的安定した黒字経営を続けているところですが、施設の震災対策工事を集中的に実施しており、一時的に多額の資金が必要となることから、今後、企業債の活用を検討しながら、資金の安定性を保ってまいります。

なお、黒字経営から生じる利益剰余金については、資本的支出としての工業用水道の施設改良や起債の償還に要する経費などに充てられています。

### (1) 工業用水道の料金

(単位：円/㎥)

区 分		水 質	基本料金	未達料金	特定料金	超過料金
水島第2期工業用水道事業		浄水	10.00	4.20	12.00	20.00
" 第3期 "		"	11.60	5.20	13.90	23.20
" 第4期 "	1 種	"	13.60	8.30	16.30	27.20
	2種水島地区	"	20.50	10.50	24.60	41.00
	2種児島地区	"	44.46	29.06	53.35	88.92
笠岡第1期 "		浄水※	24.50	12.00	29.40	49.00
		原水※	20.10	9.30	24.10	40.20
" 第2期 "		浄水※	33.00	11.90	39.60	66.00
		原水※	29.70	7.30	35.60	59.40
" 第3期 "		浄水※	45.00	40.85	54.00	90.00
		原水※	28.49	15.46	34.19	56.98
勝 央 "		原水	35.00	11.80	42.00	70.00

※笠岡第1～3期の水質については、供給区域によって異なりますので、事前に御相談ください。

注1) 料金は、消費税及び地方消費税抜き

- 2) 基本料金：工業用水の利用者が、常時使用する1日当たりの工業用水量で、責任水量の範囲で毎年度公営企業管理者が承認した基本使用水量1㎥当たりの料金
- 3) 未達料金：責任水量から基本使用水量を差し引いた未達水量1㎥当たりの料金
- 4) 特定料金：工業用水の利用者が、一定の期間に限って基本使用水量を超えて使用する場合の1日当たりの工業用水量で、責任水量の範囲で公営企業管理者が承認した特定使用水量1㎥当たりの料金
- 5) 超過料金：ひと月の日数に基本使用水量を乗じて得た水量を基準とし、工業用水の利用者の当該月の水使用量実績が当該基準を超えた場合、その超えた部分の超過使用水量1㎥当たりの料金

(2) 給水状況

① 給水の状況

(単位：m<sup>3</sup>/日)

区分		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		水	給水工場数	60	60	60	60
島	責任水量	690,940	690,940	690,950	690,970	690,970	
	基本使用水量	509,830	505,830	505,520	509,840	524,040	
笠岡	給水工場数	21	21	20	20	20	
	責任水量	39,950	40,070	39,070	39,070	39,070	
	基本使用水量	36,040	35,840	35,030	35,030	34,930	
勝央	給水工場数	13	13	13	13	13	
	責任水量	1,910	1,910	1,910	1,910	1,980	
	基本使用水量	1,060	1,060	1,010	1,010	1,020	
合計	給水工場数	94	94	93	93	93	
	責任水量	732,800	732,920	731,930	731,950	732,020	
	基本使用水量	546,930	542,730	541,560	545,880	559,990	

※各年度4月1日現在

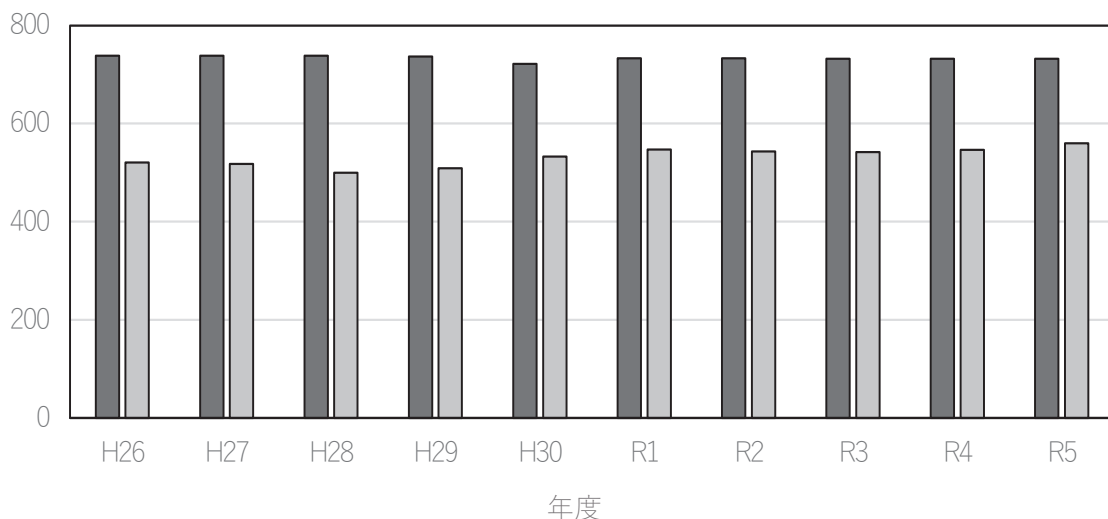
注1) 責任水量：工業用水の利用者が、自らの長期事業計画に基づいて供給を希望する最大限の1日当たりの工業用水の量のうち、公営企業管理者が承認した水量

2) 基本使用水量：工業用水の利用者が、常時使用する1日当たりの工業用水の量で、責任水量の範囲で毎年度公営企業管理者が承認した水量

② 責任水量と基本使用水量の推移

(千m<sup>3</sup>/日)

■ 責任水量 □ 基本使用水量



### (3) 事業収支及び資本的収支の状況

#### ①事業収支の状況

(単位：千円)

区分 \ 年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (見込)
事業収入	3,518,597	3,548,702	3,546,204	3,581,043	3,602,715
うち料金収入	3,215,761	3,306,059	3,272,650	3,295,521	3,310,414
事業費用	2,777,097	2,669,135	2,735,101	2,993,805	3,216,619
当年度純利益	741,500	879,567	811,103	587,238	386,096

注) 消費税及び地方消費税を除く。

#### ②資本的収支の状況

(単位：千円)

区分 \ 年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (見込)
資本的収入	1,844,007	716,569	424,460	307,024	37,164
資本的支出	2,815,011	1,981,485	2,552,230	2,207,266	786,470
資本的収支差引	△ 971,004	△ 1,264,916	△ 2,127,770	△ 1,900,242	△ 749,306

注) 消費税及び地方消費税を除く。

## 5 施設の概要

### (1) 水島第2期工業用水道事業

建設期間	昭和41年4月～昭和46年3月		
水源	高梁川（表流水）		
水量	取水量216,700m <sup>3</sup> /日 給水量201,500m <sup>3</sup> /日		
貯水施設	新成羽川ダム	高さ103m 長さ289m 有効貯水容量80,500千m <sup>3</sup>	
		貯水地点 高梁川水系成羽川 高梁市備中町西油野 高梁市備中町平川	
取水施設	取水口	鉄筋コンクリート造 幅3.0m 高さ2.1m 2連	
	導水函渠	鉄筋コンクリート造 幅1.5m 高さ1.7m 延長109m 2連	
導水施設	沈砂池	鉄筋コンクリート造 幅21.2m 長さ44.9m 高さ9.0m 1池	
	揚水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅8.1m 長さ20.6m	
	揚水ポンプ	内径600㎜ 90kW 4台	
浄水施設	傾斜板式沈殿池	鉄筋コンクリート造 幅42.3m 長さ52.0m 高さ4.5m～6.0m 2池	
	浄水池	鉄筋コンクリート造 幅25.3m 長さ45.0m 高さ4.7m～6.0m 1池	
	場内配管	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径1,350㎜～1,800㎜ 延長198m	
	薬品注入設備	硫酸バンド、苛性ソーダ、硫酸	
	管理事務所	鉄筋コンクリート造 間口18.0m 奥行36.0m 地上3階	
	汚泥処理設備	加圧脱水機1台（第2期、第3期共用） 濃縮槽2槽	
送水施設	送水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅9.3m 長さ23.3m	
	送水ポンプ	内径600㎜ 150kW 5台	
	送水管	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径1,350㎜ 延長4,567m	
配水施設	配水池	鉄筋コンクリート造 幅56.0m 長さ60.6m 高さ3.0m 2池 （容量10,000m <sup>3</sup> ×2池）	
	配水ポンプ室	鉄筋コンクリート及び鉄骨造 幅10.0m 長さ60.2m	
	配水ポンプ	内径600㎜ 110kW 2台 250kW 3台	
	配水管	B・B'地区	鋼管 内径800㎜～1,200㎜ 延長9,779m
		C地区	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径150㎜～1,100㎜ 延長7,177m
		D地区	鋼管 内径1,200㎜ 延長1,116m
管延長合計	18,072m		
事業費（建設時）	3,757,434千円（国庫補助対象事業費3,656,000千円）		



(2) 水島第3期工業用水道事業

建設期間	昭和43年4月～昭和49年3月		
水源	高梁川（表流水）		
水量	取水量222,200m <sup>3</sup> /日 給水量206,500m <sup>3</sup> /日		
貯水施設	新成羽川ダム	高さ103m 長さ289m 有効貯水容量80,500千m <sup>3</sup>	
		貯水地点 高梁川水系成羽川 高梁市備中町西油野 高梁市備中町平川	
取水施設	取水口	鉄筋コンクリート造 幅3.1m 高さ1.7m 1連	
	導水函渠	鉄筋コンクリート造 幅2.0m 高さ1.7m 延長103m 1連	
導水施設	沈砂池	鉄筋コンクリート造 幅21.2m 長さ44.9m 高さ9.0m 1池	
	揚水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅8.1m 長さ17.7m	
	揚水ポンプ	内径600 $\phi$ 90kW 3台	
浄水施設	傾斜板式沈殿池	鉄筋コンクリート造 幅42.3m 長さ52.0m 高さ4.5m～6.0m 2池	
	浄水池	鉄筋コンクリート造 幅25.3m 長さ45.0m 高さ4.7m～6.0m 1池	
	場内配管	鋼管及びダクタイル鋳鉄管 内径1,000 $\phi$ ～1,350 $\phi$	
	薬品注入設備	硫酸バンド、苛性ソーダ、硫酸	
	汚泥処理設備	※加圧脱水機1台（第2期・第3期共用） 濃縮槽4槽	
送水施設	送水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅9.3m 長さ23.3m	
	送水ポンプ	内径600 $\phi$ 150kW 4台	
	送水管	鋼管及びダクタイル鋳鉄管 内径1,350 $\phi$ 延長4,555m	
配水施設	配水池	鉄筋コンクリート造 幅40.0m 長さ65.0m 高さ3.0m 2池(容量7,500m <sup>3</sup> ×2池)	
	配水ポンプ室	鉄骨造 幅10.0m 長さ20.2m	
	配水ポンプ	内径600 $\phi$ 200kW 4台	
	配水管	B'地区	鋼管 内径1,200 $\phi$ 延長6,305m
		C地区	ダクタイル鋳鉄管 内径150 $\phi$ ～800 $\phi$ 延長3,725m
管延長合計	10,030m		
事業費（建設時）	3,683,652千円（国庫補助対象事業費3,576,732千円）		

(3) 水島第4期工業用水道事業（1種）

建設期間	昭和35年4月～昭和54年3月		
水源	高梁川（表流水）		
水量	取水量131,760m <sup>3</sup> /日 給水量122,500m <sup>3</sup> /日		
貯水施設	河本ダム	高さ64m 長さ260m 有効貯水容量11,100千m <sup>3</sup>	
		貯水地点 高梁川水系西川 新見市金谷 新見市哲多町宮河内	
取水施設	取水口	鉄筋コンクリート造 幅1.3m 高さ1.7m 3連	
	沈砂池	鉄筋コンクリート造 幅7.5m 長さ30.0m 高さ7.9m 2連 2池	
導水施設	導水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅10m 長さ20m	
	導水ポンプ	内径900㎜ 300kW 3台	
	導水管	鋼管 内径1,650㎜ 延長3,125m	
浄水施設	傾斜板式沈殿池	鉄筋コンクリート造 幅43.6m 長さ37.4m 高さ4.3m～5.5m 4池	
	薬品注入設備	硫酸バンド、苛性ソーダ、硫酸	
	場内配管	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径900㎜～1,650㎜	
	汚泥処理設備	加圧脱水機1台 濃縮槽内径17m 高さ5.6m 3槽	
配水施設	配水池	鉄筋コンクリート造 幅44.7m 長さ35.5m 高さ4.0m 4池	
	配水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅42m 長さ18m	
	配水ポンプ	内径900㎜ 800kW 3台	
	配水管	A地区	ダクタイル鑄鉄管 内径900㎜～1,100㎜ 延長1,126m
			鋼管 内径450㎜～900㎜ 延長1,049m
			硬質塩化ビニール管 内径100㎜～200㎜ 延長980m
B地区	ダクタイル鑄鉄管 内径700㎜ 延長10,066m		
	B'地区	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径1,000㎜ 延長5,618m	
管延長合計	18,839m		
事業費（建設時）	4,172,220千円		

(4) 水島第4期工業用水道事業（2種）

建設期間	昭和46年4月～平成11年3月		
水源	高梁川（表流水）		
水量	取水量190,740m <sup>3</sup> /日 給水量177,500m <sup>3</sup> /日		
貯水施設	千屋ダム	高さ97.5m 長さ259.0m 有効貯水容量26,200千m <sup>3</sup>	
	100,000m <sup>3</sup> /日	貯水池点 高梁川水系高梁川 新見市菅生 新見市坂本	
	新規開発水源 77,500m <sup>3</sup> /日		
取水施設	取水口	鉄筋コンクリート造 幅1.3m 高さ1.7m 3連	
	沈砂池	鉄筋コンクリート造 幅7.5m 長さ30.0m 高さ7.9m 2連 2池	
導水施設	導水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅10m 長さ20m	
	導水ポンプ	内径900㎜ 300kW 3台	
	導水管	鋼管 内径1,650㎜ 延長3,125m	
浄水施設	傾斜板式沈殿池	鉄筋コンクリート造 幅43.6m 長さ37.4m 高さ4.3m～5.5m 4池	
	薬品注入設備	硫酸バンド、苛性ソーダ、硫酸	
	場内配管	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径900㎜～1,650㎜	
	管理事務所	鉄筋コンクリート造 間口36.0m 奥行18.0m 地上2階 地下1階	
	汚泥処理設備	加圧脱水機1台 濃縮槽内径17m 高さ5.6m 3槽	
配水施設	配水池	鉄筋コンクリート造 幅44.7m 長さ35.5m 高さ4.0m 4池	
	配水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅42m 長さ18m	
	配水ポンプ	内径900㎜ 800kW 3台	
	児島地区	加圧ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅16.1m 長さ21.1m
		加圧ポンプ	内径250㎜ 110kW 3台
	配水池	鉄筋コンクリート造 幅74.2m 長さ12.8m 高さ7.9m 2池	
	配水管	A地区	鋼管 内径 200㎜～1,650㎜ 延長 4,642m
		B地区	鋼管 内径 600㎜～ 800㎜ 延長 1,867m
		B'地区	鋼管 内径1,350㎜ 延長 576m
		C地区	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径150㎜～1,100㎜ 延長 4,112m
		E地区	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径200㎜～ 450㎜ 延長13,241m
児島地区		鋼管及びダクタイル鑄鉄管等 内径 40㎜～ 700㎜ 延長27,011m	
管延長合計	51,449m		
事業費（建設時）	33,445,886千円（国庫補助対象事業費31,887,928千円）		

注）取水施設、導水施設、浄水施設並びに配水施設のうち配水池、配水ポンプ室及び配水ポンプは1種事業と共用

# 水島工業用水道事業概要図



工業用水道事務所 (西之浦浄水場)



亀島配水場



西之浦浄水場太陽光発電システム



鶴新田浄水場



水島第4期工業用水道事業 (2種) 児島地区 概要図





(5) 笠岡第1期工業用水道事業

建設期間	昭和44年4月～昭和48年3月	
水源	高梁川（表流水）	
水量	取水量35,500m <sup>3</sup> /日 給水量33,000m <sup>3</sup> /日	
貯水施設	新成羽川ダム	高さ103m 長さ289m 有効貯水容量80,500千m <sup>3</sup>
		貯水地点 高梁川水系成羽川 高梁市備中町西油野 高梁市備中町平川
導水施設	(専用施設)揚水ポンプ	内径500φ 370kW 2台
	共用導水路	延長22,246m 開渠コンクリート三方張 2R型馬てい形水路トンネル
浄水施設	沈殿池	鉄筋コンクリート造 幅8.8m 長さ33.0m 高さ4.8m 2池
	薬品注入設備	硫酸バンド、苛性ソーダ
	汚泥処理設備	加圧脱水機1台 濃縮槽3槽
	浄水池	鉄筋コンクリート造 幅8.8m 長さ7m 高さ3.7m 2池
	場内配管	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径500φ 延長50.0m
	管理事務所	鉄筋コンクリート造 間口26.5m 奥行き13.0m
送水施設	送水ポンプ	内径250φ 75kW 4台
	送水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅6.0m 長さ27.0m
	送水管	鋼管 内径700φ 延長4,746m
配水施設	配水池	鉄筋コンクリート造 幅25.0m 長さ33.5m
	場内配管	鋼管 内径600φ～700φ 延長50.0m
	配水管	鋼管及びダクタイル鑄鉄管 内径150φ～600φ 延長7,094m
事業費（建設時）	1,687,742千円（国庫補助対象事業費1,625,514千円）	

(6) 笠岡第2期工業用水道事業

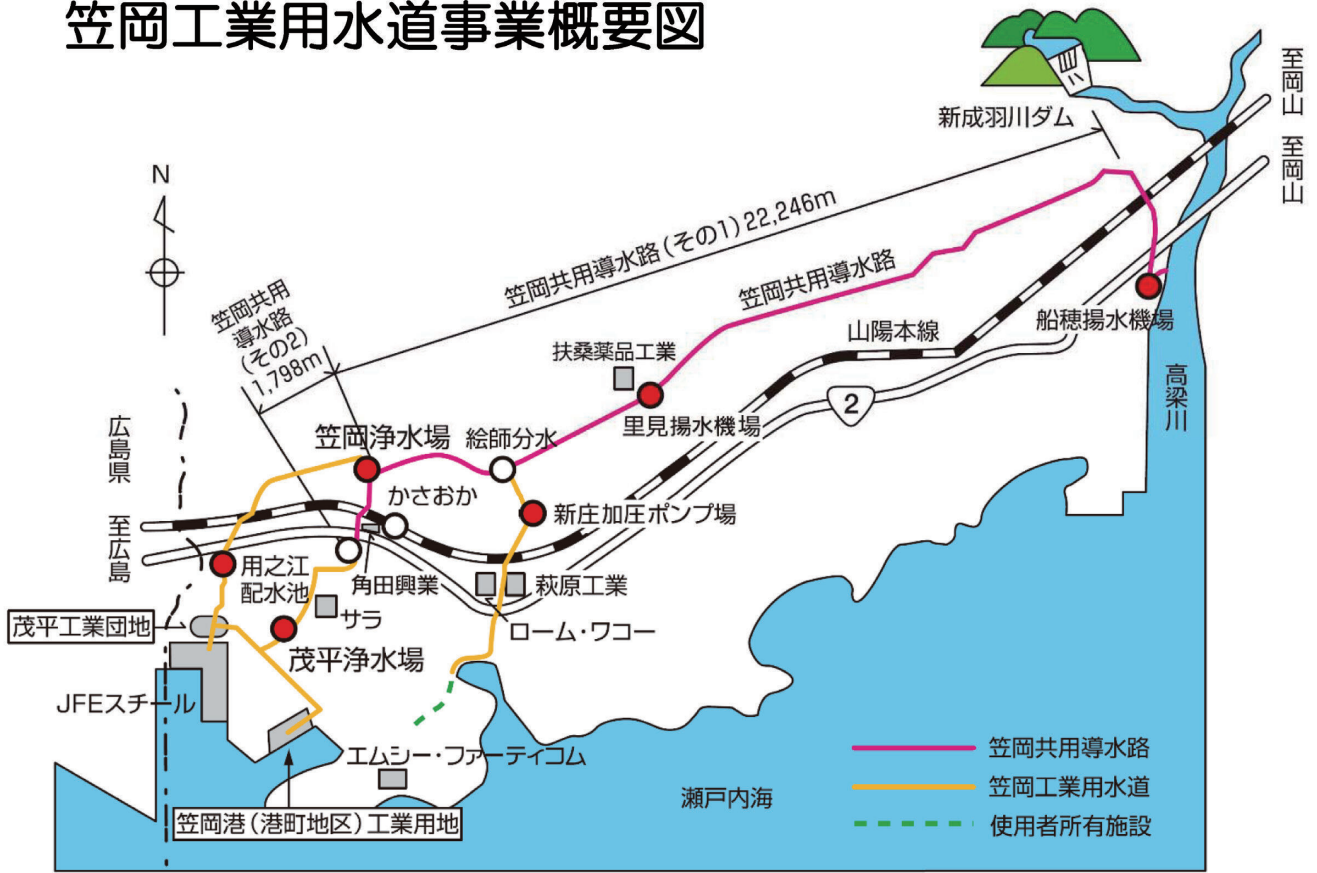
建設期間	昭和59年12月～昭和60年3月	
水源	高梁川（表流水）	
水量	取水量4,000m <sup>3</sup> /日 給水量3,700m <sup>3</sup> /日	
貯水施設	新成羽川ダム	高さ103m 長さ289m 有効貯水容量80,500千m <sup>3</sup>
		貯水地点 高梁川水系成羽川 高梁市備中町西油野 高梁市備中町平川
導水施設	(専用施設)揚水ポンプ	笠岡第1期施設を共用
	共用導水路	
浄水施設	沈殿池	笠岡第1期施設を共用
	薬品注入設備	
	汚泥処理設備	
	浄水池	
	場内配管	
	管理事務所	
送水施設	送水ポンプ	笠岡第1期施設を共用
	送水ポンプ室	
	送水管	
配水施設	配水池	笠岡第1期施設をかさ上げして共用
	配水管	ダクタイル鑄鉄管 内径75φ～200φ 延長2,005m
事業費（建設時）	117,400千円	

(7) 笠岡第3期工業用水道事業

建設期間	平成2年10月～平成5年3月	
水源	高梁川（表流水）	
水量	取水量14,000m <sup>3</sup> /日 給水量13,000m <sup>3</sup> /日	
貯水施設	新成羽川ダム	高さ103m 長さ289m 有効貯水容量80,500千m <sup>3</sup>
		貯水地点 高梁川水系成羽川 高梁市備中町西油野 高梁市備中町平川
導水施設	(専用施設)揚水ポンプ	内径300㎜ 190kW 1台
	共用導水路（その1）	延長22,246m 開渠コンクリート三方張 2R型馬てい形水路トンネル
	共用導水路（その2）	延長1,789m 馬てい形水路トンネル
	導水管	ダクタイル鑄鉄管 内径500㎜ 延長3,229m
浄水施設	沈殿池	鉄筋コンクリート造 幅6.5m 長さ28.6m 高さ3.55m 2池
	薬品注入設備	硫酸バンド、苛性ソーダ
	汚泥処理設備	加圧脱水機1台 濃縮槽2槽
	浄水池	鉄筋コンクリート造 幅5.7m 長さ4.2m 高さ4.6m 2池
	場内配管	ダクタイル鑄鉄管 内径500㎜ 延長44.3m
	管理事務所	鉄骨造（ALC） 間口20.5m 奥行12.5m
送水施設	送水ポンプ	内径150㎜ 30kW 3台
	送水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 幅12.5m 長さ6.4m
	送水管	ダクタイル鑄鉄管 内径500㎜ 延長87m
配水施設	配水池	鉄筋コンクリート造 幅21.0m 長さ13.2m 高さ4.3m 2池
	配水管	ダクタイル鑄鉄管 内径75㎜～500㎜ 延長5,169m
事業費（建設時）	2,847,000千円（国庫補助対象事業費2,670,396千円）	

注) 共用導水路（その1）は笠岡第1, 2期施設を共用

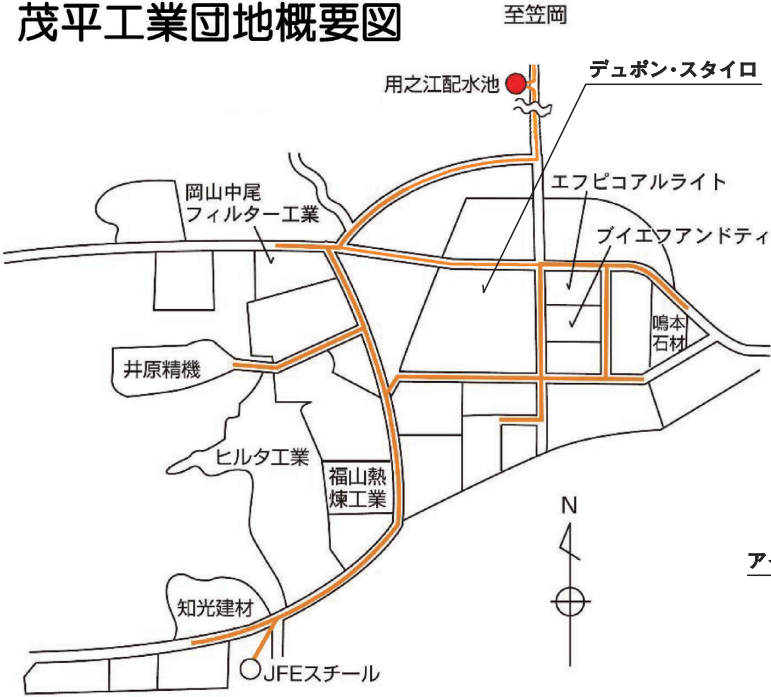
# 笠岡工業用水道事業概要図



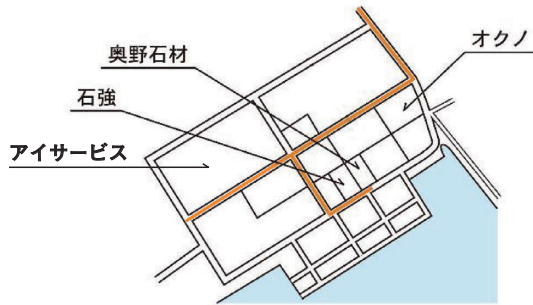
笠岡浄水場



# 茂平工業団地概要図



港町地区工業用地概要図



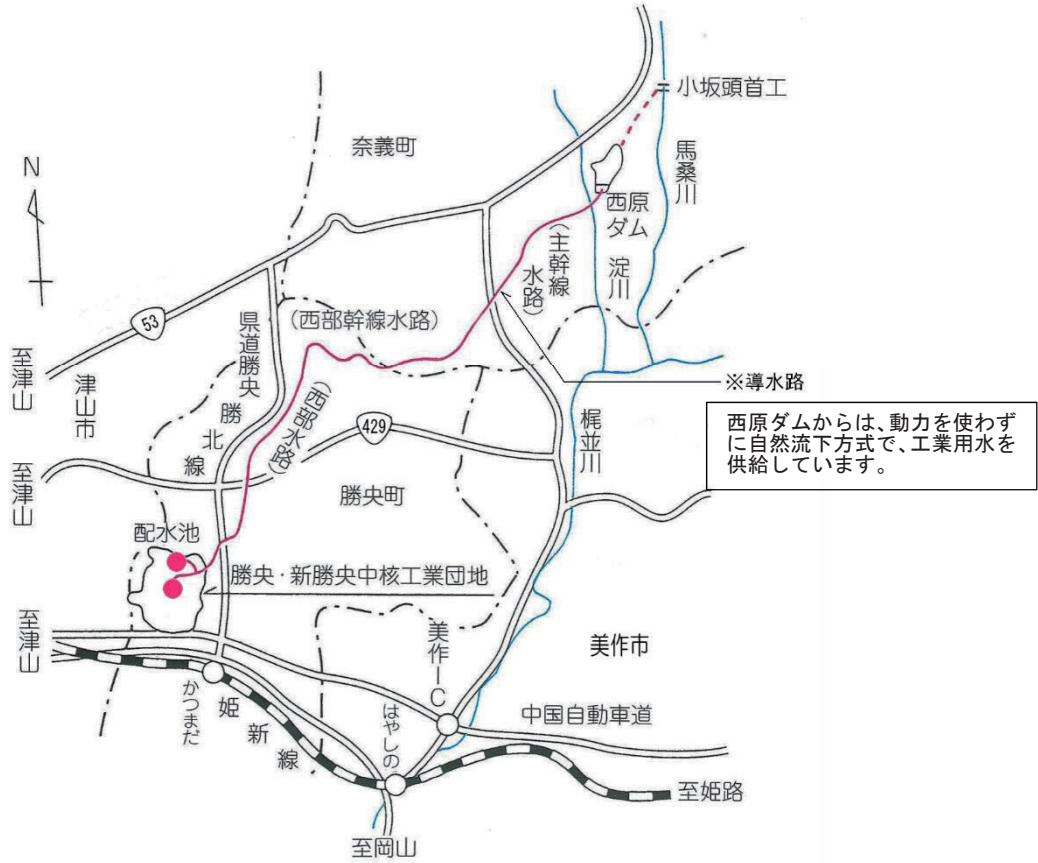


(8) 勝央工業用水道事業

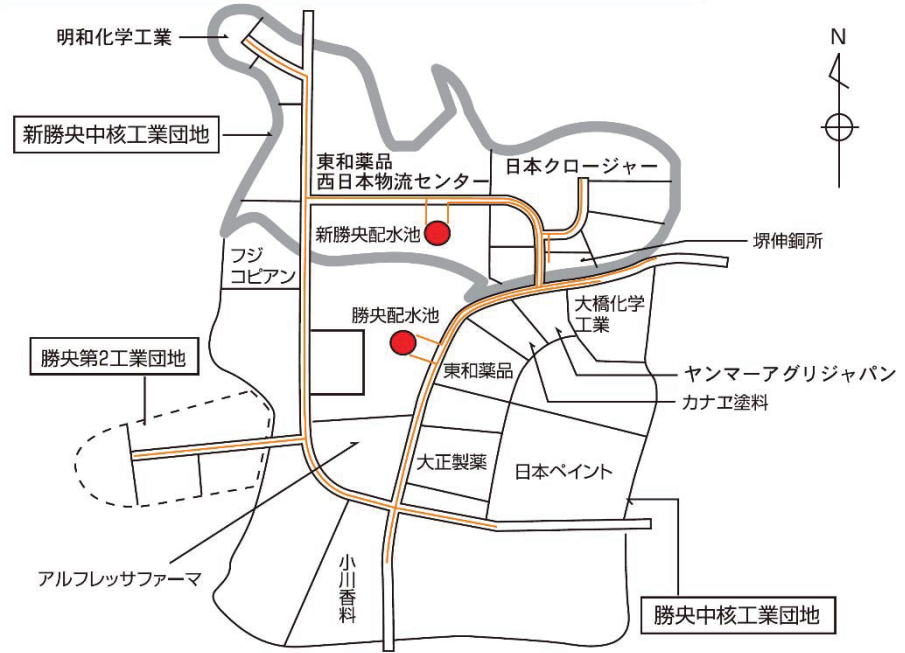
建設期間	勝 央	昭和51年4月～昭和54年3月
	新 勝 央	平成6年4月～平成8年3月
水源	馬桑川（表流水）	
水量	取水量4,460m <sup>3</sup> /日 給水量4,200m <sup>3</sup> /日（うち新勝央 800m <sup>3</sup> /日）	
貯水施設	小坂頭首工	高さ2.0m 長さ14.0m
	小坂導水路	延長1,010.73m
	西原ダム	高さ46.1m 長さ192.3m 有効貯水容量1,867千m <sup>3</sup> 貯水地点 吉井川水系長谷川 勝田郡奈義町西原
導水施設	主幹線水路	内径600㎜～700㎜ 延長5,425m
	西部幹線水路	内径500㎜ 延長3,983m
	西部水路	内径350㎜～450㎜ 延長5,091m
送水施設	送水管	勝 央 ダクタイル鑄鉄管 内径300㎜ 延長2,219m 新 勝 央 ダクタイル鑄鉄管 内径200㎜ 延長590.5m
	配水池	勝 央 幅14.8m 長さ22.4m 高さ4.6m 2池 新 勝 央 幅 4.4m 長さ11.4m 高さ3.6m 2池
配水管		勝 央 ダクタイル鑄鉄管 内径75㎜～300㎜ 延長2,649m 新 勝 央 ダクタイル鑄鉄管 内径75㎜～200㎜ 延長1,396.5m 連絡管 ダクタイル鑄鉄管 内径150㎜～200㎜ 延長435.9m
	事業費（建設時）	勝 央 757,310千円（国庫補助対象事業費743,000千円） 新 勝 央 82,010千円

注) 貯水施設、導水施設については、勝央、新勝央の共用施設である。

# 勝央工業用水道事業概要図



## 勝央・新勝央中核工業団地概要図



## 共通事項

### 1 水源かん養林

電気事業及び工業用水道事業の安定した運営には豊かな水の恵みが欠かせないことから、県内13か所に水源かん養林を整備し管理しています。

また、津山市加茂町に整備した「企業局の森」では、災害に強く、安定した水源を確保するため、様々な世代・樹種が混在した多様性のある循環型天然生樹林（針広混交林）への移行を目指し、必要な管理等を行っています。

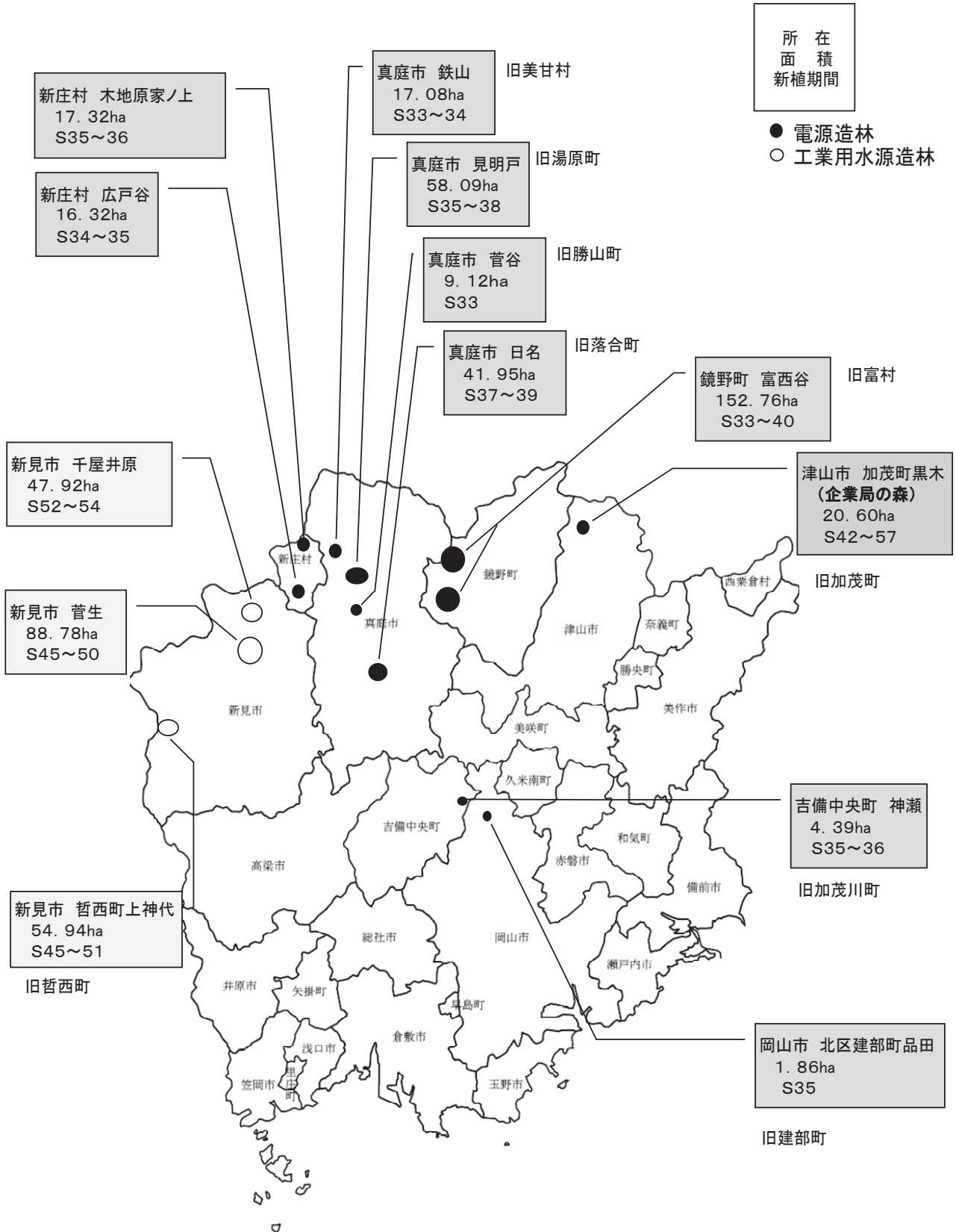
#### < 「企業局の森」の整備 >

平成18年度から平成23年度に約7haを間伐し、広葉樹の植栽と周回歩道等を整備し、以降、針葉人工林の保育管理を中心とした維持管理を行っています。

	所在地	面積 (ha)	新植期間	樹種	水系
電源造林	真庭市菅谷	9.12	S33年	ヒノキ、スギ	旭川
	〃 鉄山	17.08	S33～34年	ヒノキ、スギ	
	〃 見明戸	58.09	S35～38年	ヒノキ、スギ、カラマツ	
	〃 日名	41.95	S37～39年	ヒノキ、スギ、アカマツ	
	鏡野町富西谷	152.76	S33～40年	ヒノキ、スギ、アカマツ、カラマツ	
	新庄村広戸谷	16.32	S34～35年	ヒノキ、スギ	
	〃 木地原家ノ上	17.32	S35～36年	ヒノキ、スギ	
	吉備中央町神瀬	4.39	S35～36年	ヒノキ	
	岡山市北区建部町品田	1.86	S35年	アカマツ、クロマツ	
	津山市加茂町黒木 (企業局の森)	20.60	S42～57年	ヒノキ、スギ、アカマツ	
	小計	339.49			
工業用水源造林	新見市菅生	88.78	S45～50年	ヒノキ、スギ	高梁川
	〃 千屋井原	47.92	S52～54年	ヒノキ、スギ	
	〃 哲西町上神代	54.94	S45～51年	ヒノキ、スギ	
	小計	191.64			
合計		531.13			

# 企業局 水源かん養林

R5.4.1 現在



## 2 市町村交付金

企業局の資産は、固定資産税が非課税であることから、「国有資産等所在市町村交付金法」に基づき、固定資産の価格(交付金算定標準額)の1.4%を施設所在市町村に対して交付金として交付しています。

対象資産としては、電気事業用資産、工業用水道事業の用に供するダムの資産、公舎等が該当します。

なお、倉敷市、笠岡市、勝央町内に存する工業用水道事業の浄水・配水施設等は、受益者不交付のため、対象外となります。

市町村交付金交付額一覧表（令和4年度実績）

(円)

市町村名	電気事業	工業用水道事業	合計
岡山市	41,990,600	147,700	42,138,300
倉敷市		273,600	273,600
津山市	18,805,400		18,805,400
高梁市	75,400	4,572,600	4,648,000
新見市	17,126,300	112,293,200	129,419,500
真庭市	15,677,500		15,677,500
美作市	1,594,700		1,594,700
新庄村	3,700		3,700
鏡野町	13,750,500		13,750,500
奈義町		1,166,800	1,166,800
美咲町	90,500		90,500
吉備中央町	246,300		246,300
合計	109,360,900	118,453,900	227,814,800



### 3 地域・社会への貢献

企業局では、事業内容のPR、地域交流及び社会貢献に資する活動に取り組んでいます。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け実施することができませんでした。

#### (1) 施設見学

水の恵みを生かした事業、環境に優しいエネルギーの積極的な導入に取り組む企業局では、水力発電所、工業用水道施設、太陽光発電システム等を、施設見学や環境学習の場として県民の皆さんに活用していただいています。

電気や水の大切さについて考えてもらうために、新見発電所へ市内の小学生を招き、「水力発電施設見学会」を開催しています。見学会では、発電に関する出前講座、発電所やダムの見学を行い、水の力を使って電気ができる仕組みやダムの役割について学ぶことができます。



出前講座



新見発電所見学

～小学生が電気づくりを体感！～岡山県企業局「水力発電施設見学会」

工業用水道事務所へ地元の小学生を招き、浄水場や太陽光発電システムの社会見学会を行っています。見学会では、実験も行いながら浄水場の仕組みを体験したり、太陽光発電の原理などについて学ぶことができます。



工業用水道施設の見学  
「社会見学会」



## (2) 地域との交流

環境緑化対策として工業用水道施設の敷地内にみかんやバラを植栽していることから、幼稚園児や社会福祉施設入所者の皆さんへの「みかん狩り」の招待や、バラの花束のプレゼントを通じて、地域との交流を深めています。



「みかん狩り」

## (3) 環境出前講座

地球環境やエネルギーの大切さに関心をもっていただくことを目的に、「企業局・環境出前講座」を設けており、企業局ホームページでの情報発信や県教育委員会の「子ども応援人材バンク」への登録により、講座実施の募集を行っています。

地球温暖化が自然環境や動物等に与える影響を考えるものや、模型で電気を作る実験等を行いながら環境に優しいエネルギーについて学習するもの、工業用水がどのようにして作られるのかを学習する講座など、小学校等からの要請に応じて行うこととしています。



発電のしくみについて



さわって体験

「企業局・環境出前講座」

#### (4) 事業PR

一般の方々にも企業局の事業内容を広く知ってもらうため、給水企業でもあるJFEスチール(株)西日本製鉄所が例年秋に開催している「JFE西日本フェスタ in くらしき」に企業局も参加しています。

このフェスタでは、工場見学やステージショー等のイベントだけではなく、県内外の企業や団体が展示用ブースを設け、様々な事業PRを行っています。



浄水ケーキの無料配布



出展の様子



手回し発電機で動く犬のぬいぐるみ



自転車での発電体験

「JFE西日本フェスタ in くらしきへの出展」



## 当初予算及び貸借対照表

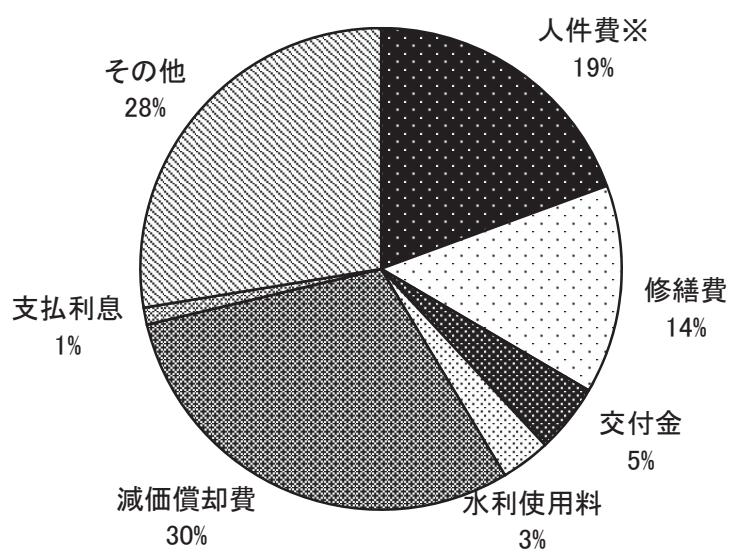
# 電 気 事 業 会 計

## 収益的収支及び資本的収支の状況

(単位：千円)

分類	科 目		令和4年度 予 算 額	令和5年度 予 算 額	増 減
	款	項			
収 益	収 電 電 事 益 業	営 業 収 益	3,091,683	3,010,736	△ 80,947
		財 務 収 益	2,528	1,731	△ 797
		営 業 外 収 益	7,030	7,980	950
		合 計	3,101,241	3,020,447	△ 80,794
的 収 支	費 電 電 事 用 業	営 業 費 用	2,160,645	2,230,815	70,170
		財 務 費 用	35,757	27,582	△ 8,175
		営 業 外 費 用	183,944	166,474	△ 17,470
		予 備 費	10,000	10,000	0
		合 計	2,390,346	2,434,871	44,525
		当 年 度 純 利 益	710,895	585,576	△ 125,319
資 本 的 収 支	収 資 本 入 的	固 定 資 産 売 却 代 金	2,425	0	△ 2,425
		合 計	2,425	0	△ 2,425
支 資 本 出 的		建 設 改 良 費	425,778	278,785	△ 146,993
		企 業 債 償 還 金	388,219	370,014	△ 18,205
		投 資	0	755	755
		再生可能エネルギー等推進費	307,084	424,439	117,355
		合 計	1,121,081	1,073,993	△ 47,088
		資 金 過 不 足 額	△ 1,118,656	△ 1,073,993	44,663

電気事業費用の構成比(令和5年度)



※退職給付費を除く



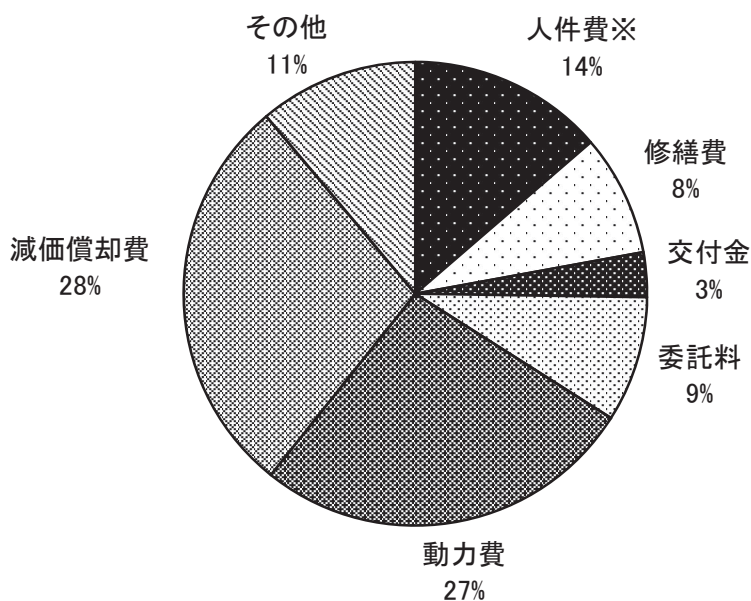
# 工業用水道事業会計

## 収益的収支及び資本的収支の状況

(単位：千円)

分類	科目		令和4年度 予算額	令和5年度 予算額	増減
	款	項			
収益的 収支	事業用水道 収益	営業収益	3,575,573	3,591,650	16,077
		財務収益	996	1,329	333
		営業外収益	299,585	265,205	△ 34,380
		合計	3,876,154	3,858,184	△ 17,970
資本的 収支	事業用水道 費用	営業費用	3,586,920	3,646,670	59,750
		財務費用	16,456	9,066	△ 7,390
		営業外費用	88,152	27,840	△ 60,312
		特別損失	73,275	0	△ 73,275
		予備費	12,000	12,000	0
		合計	3,776,803	3,695,576	△ 81,227
当年度純利益		99,351	162,608	63,257	
資本的 収支	資本的 収入	国庫補助金	0	1,100	1,100
		固定資産売却代金	100	100	0
		負担金	43,762	83,853	40,091
		合計	43,862	85,053	41,191
資本的 収支	資本的 支出	建設改良費	984,440	1,579,205	594,765
		企業債償還金	326,290	205,810	△ 120,480
		投資	0	21	21
		合計	1,310,730	1,785,036	474,306
資金過不足額		△ 1,266,868	△ 1,699,983	△ 433,115	

工業用水道事業費用の構成比(令和5年度)



※退職給付費を除く



令和3年度 岡山県営電気事業貸借対照表  
(令和4年3月31日)

(単位:円)

区 分	金 額		
資 産 の 部			
1 固 定 資 産			
(1) 電 気 事 業 固 定 資 産			
イ 水 力 発 電 設 備	30,493,990,116		
減 価 償 却 累 計 額	18,719,617,490	11,774,372,626	
ロ 太 陽 光 発 電 設 備	1,498,725,675		
減 価 償 却 累 計 額	611,398,244	887,327,431	
ハ 送 電 設 備	41,295,465		
減 価 償 却 累 計 額	32,960,336	8,335,129	
ニ 業 務 設 備	169,102,163		
減 価 償 却 累 計 額	60,519,095	108,583,068	
電 気 事 業 固 定 資 産 合 計			12,778,618,254
(2) 固 定 資 産 仮 勘 定			
イ 建 設 仮 勘 定		270,370,000	
固 定 資 産 仮 勘 定 合 計			270,370,000
固 定 資 産 合 計			13,048,988,254
2 流 動 資 産			
(1) 現 金 預 金			7,787,419,244
(2) 未 収 金			365,917,906
(3) 貯 蔵 品			427,609
流 動 資 産 合 計			8,153,764,759
資 産 合 計			21,202,753,013

区 分		金 額		
<b>負債の部</b>				
3	固定負債			
(1)	企業債			
	イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	1,522,319,400		
	企業債合計		1,522,319,400	
(2)	引当金			
	イ 退職給付引当金	487,211,085		
	ロ 特別修繕引当金	1,085,729,000		
	引当金合計		1,572,940,085	
	固定負債合計			3,095,259,485
4	流動負債			
(1)	企業債			
	イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	388,216,069		
	企業債合計		388,216,069	
(2)	未払金		136,377,630	
(3)	引当金			
	イ 賞与引当金	35,028,000		
	引当金合計		35,028,000	
(4)	その他流動負債		1,522,840	
	流動負債合計			561,144,539
5	繰延収益			
(1)	長期前受金	666,548,736		
	長期前受金収益化累計額	479,699,789	186,848,947	
	繰延収益合計			186,848,947
	負債合計			3,843,252,971
<b>資本の部</b>				
6	資本金			
(1)	自己資本金		14,670,631,839	
	資本金合計			14,670,631,839
7	剰余金			
(1)	資本剰余金			
	イ その他資本剰余金	11,794,566		
	資本剰余金合計		11,794,566	
(2)	利益剰余金			
	イ 減債積立金	74,801,324		
	ロ 再生可能エネルギー等推進積立金	1,534,053,000		
	ハ 当年度未処分利益剰余金	1,068,219,313		
	利益剰余金合計		2,677,073,637	
	剰余金合計			2,688,868,203
	資本合計			17,359,500,042
	負債資本合計			21,202,753,013

令和3年度 岡山県営工業用水道事業貸借対照表  
(令和4年3月31日)

(単位:円)

区 分	金 額		
<b>資 産 の 部</b>			
1 固 定 資 産			
(1) 有 形 固 定 資 産			
イ 土 地		2,018,798,944	
ロ 水 源 かん 養 林		290,819,111	
ハ 建 物	2,171,754,891		
建物減価償却累計額	1,652,629,197	519,125,694	
ニ 構 築 物	43,117,459,375		
構築物減価償却累計額	20,052,905,895	23,064,553,480	
ホ 機 械 及 び 装 置	14,817,515,587		
機械及び装置減価償却累計額	11,552,882,119	3,264,633,468	
ヘ 車 両 運 搬 具	29,480,499		
車両運搬具減価償却累計額	22,665,457	6,815,042	
ト 船 舶	11,894,060		
船舶減価償却累計額	11,299,357	594,703	
チ 工 具 器 具 及 び 備 品	103,873,916		
工具器具及び備品減価償却累計額	81,671,580	22,202,336	
リ 建 設 仮 勘 定		3,408,755,739	
有形固定資産合計			32,596,298,517
(2) 無 形 固 定 資 産			
イ 地 上 権		111,506	
ロ 施 設 利 用 権		109,673	
ハ 電 話 加 入 権		2,793,679	
ニ その他無形固定資産		73,013,983	
無形固定資産合計			76,028,841
固定資産合計			32,672,327,358
2 流 動 資 産			
(1) 現 金 預 金		7,719,176,954	
(2) 未 収 金		474,172,055	
(3) 貯 蔵 品		14,695,745	
(4) 前 払 金		14,036,000	
流動資産合計			8,222,080,754
資産合計			40,894,408,112

区 分		金 額		
<b>負 債 の 部</b>				
3	固 定 負 債			
(1)	企 業 債 権			
	イ 建設改良費等の財源に充てる た め の 企 業 債 権	462,985,628		
	企 業 債 権 合 計		462,985,628	
(2)	引 当 金			
	イ 退 職 給 付 引 当 金	483,774,290		
	ロ 特 別 修 繕 引 当 金	430,367,054		
	引 当 金 合 計		914,141,344	
	固 定 負 債 合 計			1,377,126,972
4	流 動 負 債			
(1)	企 業 債 権			
	イ 建設改良費等の財源に充てる た め の 企 業 債 権	326,288,507		
	企 業 債 権 合 計		326,288,507	
(2)	未 払 金		577,328,041	
(3)	引 当 金			
	イ 賞 与 引 当 金	41,537,000		
	ロ 特 別 修 繕 引 当 金	94,357,000		
	引 当 金 合 計		135,894,000	
(4)	そ の 他 流 動 負 債		3,691,805	
	流 動 負 債 合 計			1,043,202,353
5	繰 延 収 益			
(1)	長 期 前 受 金	14,730,097,475		
	長 期 前 受 金 収 益 化 累 計 額	8,833,215,653	5,896,881,822	
	繰 延 収 益 合 計			5,896,881,822
	負 債 合 計			8,317,211,147
<b>資 本 の 部</b>				
6	資 本 金			
(1)	自 己 資 本 金		30,382,360,554	
	資 本 金 合 計			30,382,360,554
7	剰 余 金			
(1)	資 本 剰 余 金			
	イ 受 贈 財 産 評 価 額	122,831,446		
	ロ そ の 他 資 本 剰 余 金	673,362,619		
	資 本 剰 余 金 合 計		796,194,065	
(2)	利 益 剰 余 金			
	イ 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	1,398,642,346		
	利 益 剰 余 金 合 計		1,398,642,346	
	剰 余 金 合 計			2,194,836,411
	資 本 合 計			32,577,196,965
	負 債 資 本 合 計			40,894,408,112



## 【 参 考 资 料 】



## 機関等の所在地

	機 関 名	所 在 地	電 話 番 号	郵便番号	
本 局	岡 山 県 企 業 局	岡山市中区 古京町1-7-36 (岡山県庁分庁舎3階)	総務企画課 総 務 班 (086) 226-7542 経 理 班 (086) 226-7543 経営推進室 (086) 226-7544 (086) 226-7545 施設課 発 電 班 (086) 226-7546 工業用水班 (086) 226-7547 土 木 班 (086) 226-7541 FAX (086) 223-2584 E-mail: kigyokyoku@pref.okayama.lg.jp アドレス: http://www.pref.okayama.jp	703-8278	
			代表電話 (086) 286-8040 総 務 課 (086) 286-8081 発 電 課 (086) 286-8082 施設管理課 (086) 286-8083 FAX (086) 286-8256 E-mail: sougouhatu@pref.okayama.lg.jp		701-1221
			総務課(代表電話) (086) 446-2441 給 水 課 (086) 446-2981 施設管理課 (086) 446-2982 FAX (086) 448-3252 E-mail: kousui@pref.okayama.lg.jp		
事 業 所	発 電 総 合 管 理 事 務 所	岡山市北区 芳賀5314			
	工業用水道事務所	倉敷市 連島町西之浦5912-3			

		施 設 名	所 在 地
発 電 所	旭 川 水 系	旭川第一発電所	岡山市北区建部町鶴田919-1
		旭川第二発電所	岡山市北区建部町品田642-1
		寄水発電所	真庭市田口1299-2
		真加子発電所	真庭市蒜山真加子57-2
	高 梁 川 水 系	新見発電所	新見市金谷69
		千屋発電所	新見市坂本1717-4
		三室発電所	新見市神郷油野3413-10
	吉 井 川 水 系	加茂発電所	津山市加茂町塔中241-6
		黒木えん堤発電所	津山市加茂町黒木626-4
		越畑発電所	苫田郡鏡野町越畑23-4
		久賀発電所	美作市久賀1821-6
		倉見発電所	津山市加茂町倉見688
		滝ノ谷発電所	津山市加茂町黒木644-3
		梶並発電所	美作市久賀2170-2
		阿波発電所	津山市阿波2820-8
		津川発電所	津山市奥津川878-2
		大町発電所	苫田郡鏡野町大町856-1
		苫田発電所	苫田郡鏡野町久田下原1536
		岡山空港太陽光発電所	
工 業 用 水 道	水 島	鶴新田浄水場	倉敷市連島町鶴新田1200
		亀島配水場	倉敷市水島南亀島町1-37
		塩生加圧ポンプ場	倉敷市児島塩生2767-79
		通生配水池	倉敷市児島通生1552-7
	笠 岡	船穂揚水機場	倉敷市船穂町船穂746-2
		笠岡浄水場	笠岡市金浦454
		茂平浄水場	笠岡市茂平3159
		用之江配水池	笠岡市用之江500-4
	勝 央	勝央配水池	勝田郡勝央町太平台
		新勝央配水池	勝田郡勝央町太平台68-2

※ 上記の施設は全て無人となっています。

## 企業局の歩み

- 昭和26年 1月 旭川第一発電所建設工事着手（旭川開発事務局担当）
28. 4 旭川第二発電所建設工事着手（ ” ” ）
29. 2 旭川第一発電所運転開始
29. 5 ” 建設工事竣工
29. 11 旭川第二発電所建設工事竣工、運転開始
29. 12 岡山県電気局を設置（旭川第一、第二発電所の営業開始に伴い発足。旭川開発事務局廃止）
35. 4 水島第1期工業用水道建設工事着手（高梁川総合開発建設局担当）
36. 4 新見発電所建設工事着手（高梁川総合開発建設局担当）
36. 7 水島第1期工業用水道一部給水開始
38. 4 加茂町（現津山市）に加茂発電調査事務所を設置
38. 5 局に管理部、電気部を置き、管理部に総務課、経理課を、電気部に電気課、工務課を置く。
38. 8 電気局の機構を改め、企業局とし、本局に管理、電気、工業用水の各部を置き、管理部に総務課、経理課を、電気部に電気課、工務課を、工業用水部に業務課、計画課を置く。  
倉敷市に工業用水道建設事務所を設置
38. 9 新見発電所運転開始
38. 10 ” 建設工事竣工
39. 3 水島第1期工業用水道建設工事竣工
39. 4 加茂発電所建設工事着手  
加茂発電調査事務所を加茂発電建設事務所に改める。（加茂発電所の建設工事着手に伴う機構変えによる。）  
新見市に横見水路事務所を設置（河本ダムの完成に伴い高梁川総合開発建設局が廃止され残存工事である横見取水路工事が企業局の所管となる。）
39. 10 横見取水路建設工事竣工（横見取水路工事事務所廃止）
41. 4 水島第2期工業用水道建設工事着手
42. 1 加茂発電所運転開始
42. 5 本局の機構のうち電気部、工業用水部を廃止して業務部、建設部を置き、業務部に電気課、工業用水課を、建設部に計画課、工事課を置く。  
加茂町（現津山市）に阿波水路工事事務所を設置（加茂発電建設事務所廃止）
43. 3 加茂発電所建設工事竣工（阿波水路工事事務所廃止）  
鷲羽山有料道路建設工事着手
43. 4 倉敷市に有料道路建設事務所を設置  
水島第3期工業用水道建設工事着手  
水島第2期工業用水道給水開始
43. 9 川上村（現真庭市）に有料道路建設事務所蒜山現場事務所を設置。蒜山大山有料道路建設工事着手

- 昭和44年 4月 笠岡第1期工業用水道・共用導水路建設工事着手
45. 3 鷲羽山有料道路建設工事竣工
45. 4 鷲羽山有料道路供用開始  
本局の業務部に有料道路課を置く。  
笠岡市に工業用水道建設事務所笠岡現場事務所を設置
45. 6 蒜山大山有料道路建設工事竣工
45. 7 蒜山大山有料道路供用開始（有料道路建設事務所、同蒜山現場事務所廃止）。川上村（現真庭市）に蒜山大山有料道路管理事務所を設置
45. 9 水島第3期工業用水道給水開始
46. 3 水島第2期工業用水道建設工事竣工
46. 4 水島第4期工業用水道建設工事着手
47. 3 笠岡共用導水路建設工事竣工
47. 5 笠岡第1期工業用水道建設工事竣工
47. 10 笠岡第1期工業用水道給水開始
48. 4 公営企業管理者を設置  
笠岡市に工業用水道建設事務所笠岡浄水場を設置（工業用水道建設事務所笠岡現場事務所廃止）
49. 3 水島第3期工業用水道建設工事竣工
50. 10 水島第4期工業用水道一部給水開始、倉敷市に工業用水道建設事務所鶴新田浄水場を設置
51. 4 本局機構のうち建設部の計画課、工事課を廃止して工務課を置く。  
蒜山大山有料道路管理事務所を廃止  
勝央工業用水道建設工事着手
53. 4 本局機構を改め、管理部（総務課、経理課）、業務部（電気課、工業用水課、有料道路課）、建設部（工務課）の各部課を廃止し、総務課、経営課、施設課を置く。  
工業用水道建設事務所を工業用水道事務所に改め、工事課を廃止して施設課を置く。
53. 10 黒木えん堤発電所建設工事着手
54. 3 黒木えん堤発電所建設工事竣工  
勝央工業用水道建設工事竣工
54. 4 黒木えん堤発電所運転開始
55. 4 勝央工業用水道給水開始
56. 6 越畑発電所建設工事着手  
久賀発電所建設工事着手
56. 7 高瀬発電所建設工事着手（土木部から受託工事）
57. 3 越畑発電所建設工事竣工  
久賀発電所建設工事竣工  
高瀬発電所建設工事竣工。運転開始（土木部から受託管理）
57. 4 越畑発電所運転開始  
久賀発電所運転開始

- 昭和57年 6月 倉見発電所建設工事着手
58. 10 滝ノ谷発電所建設工事着手  
梶並発電所建設工事着手
58. 11 倉見発電所建設工事竣工。倉見発電所運転開始
59. 3 滝ノ谷発電所建設工事竣工
59. 4 滝ノ谷発電所運転開始
59. 6 梶並発電所建設工事竣工
59. 7 梶並発電所運転開始
59. 12 笠岡第2期工業用水道建設工事着手
60. 3 笠岡第2期工業用水道建設工事竣工
60. 4 笠岡第2期工業用水道給水開始
60. 7 阿波発電所建設工事着手
61. 10 阿波発電所建設工事竣工
61. 11 阿波発電所運転開始
62. 4 水島第4期工業用水道の児島地区工業用水道建設工事着手
63. 5 児島工業用水道建設事務所を設置
- 平成元年 4月 本局機構のうち経営課を経営企画課に改める。  
寄水発電所建設現場事務所を設置
2. 3 寄水発電所建設工事着手
2. 4 児島地区工業用水道一部給水開始  
笠岡工業用水道建設事務所を設置
2. 10 笠岡第3期工業用水道建設工事着手
3. 5 津川発電所建設工事着手  
寄水発電所建設工事竣工
3. 6 寄水発電所運転開始。寄水発電所建設現場事務所を廃止
4. 3 児島地区工業用水道竣工。児島工業用水道建設事務所を廃止
5. 2 千屋発電所建設工事着手
5. 3 笠岡第3期工業用水道竣工。笠岡第3期工業用水道建設事務所を廃止
5. 4 笠岡第3期工業用水道給水開始
5. 7 蒜山大山有料道路無料開放
5. 8 企業局開設30周年
6. 3 県庁太陽光発電システム竣工
6. 4 勝央工業用水道新勝央中核工業団地への給水区域の拡大工事着手
7. 3 津川発電所建設工事竣工
7. 4 本局機構のうち経営企画課を経営課に改める。  
鷲羽山有料道路無料開放（有料道路事業廃止）  
津川発電所運転開始  
大町発電所建設現場事務所を設置

- 平成 7年 5月 大町発電所建設工事着手
- 8. 3 勝央工業用水道新勝央中核工業団地への給水区域の拡大工事竣工
  - 8. 10 企業局ホームページを開設
  - 9. 3 大町発電所建設工事竣工。大町発電所建設現場事務所を廃止
  - 9. 4 大町発電所運転開始
  - 10. 3 苫田ダム建設事業に係る発電事業に参加（第3回苫田ダム基本計画変更）
  - 10. 8 千屋発電所建設工事竣工。千屋発電所運転開始
  - 10. 9 真加子発電所建設工事着手（中国電力（株）との基本協定締結）
  - 10. 10 勝央工業用水道新勝央中核工業団地へ給水開始
  - 11. 9 苫田発電所建設工事着手（中国電力（株）との基本協定締結）
  - 13. 3 真加子発電所建設工事竣工
  - 13. 4 真加子発電所運転開始
  - 13. 8 三室発電所建設工事着手
  - 15. 2 西之浦浄水場、西阿知取水場太陽光発電システム竣工
  - 15. 3 「岡山県企業局中期プラン（経営5カ年計画）」策定
  - 15. 8 企業局開設40周年
  - 16. 4 本局機構を改め、企画政策班を置く。
  - 16. 12 旭川発電所営業開始（電気事業開始）50周年
  - 17. 2 県総合グラウンドにハイブリッド照明灯設置（旭川発電所50周年記念事業）  
西之浦浄水場太陽光発電システム竣工（増設）
  - 17. 3 苫田発電所建設工事竣工
  - 17. 4 苫田発電所運転開始
  - 17. 12 「岡山県企業局中期プラン（経営5カ年計画）」改訂
  - 18. 2 鶴新田浄水場、笠岡浄水場太陽光発電システム竣工
  - 18. 3 三室発電所建設工事竣工
  - 18. 4 三室発電所運転開始  
笠岡浄水場を工業用水道事務所に統合無人化
  - 19. 2 発電総合管理事務所太陽光発電システム竣工  
西之浦浄水場太陽光発電システム竣工（増設）
  - 19. 4 本局機構のうち企画政策班を廃止し、総務課を総務企画課に改める。
  - 20. 2 鶴新田浄水場太陽光発電システム竣工（増設）
  - 20. 4 総務企画課に企画班を置く。
  - 21. 4 旭川・新見・加茂発電所を無人化し、発電総合管理事務所運用開始  
本局機構のうち経営課を総務企画課の課内室とし、経営推進室に改める。
  - 22. 4 本局機構のうち企画班を廃止する。
  - 25. 3 岡山空港太陽光発電所建設工事着手
  - 25. 8 企業局開設50周年  
岡山空港太陽光発電所一部竣工（一部運転開始）
  - 25. 12 岡山空港太陽光発電所工事竣工（全面運転開始）
  - 27. 4 発電総合管理事務所に総務課を置く。



- 平成27年10月 玉島ハーバーアイランド工業用水道配水管布設工事着手
- 28. 3 本局を岡山県庁分庁舎（岡山市中区古京町）に移転  
県庁太陽光発電システム廃止
  - 28. 8 玉島ハーバーアイランド工業用水道配水管布設工事竣工
  - 28. 12 玉島ハーバーアイランドへの給水開始
  - 29. 10 倉見発電所リニューアル運転開始
  - 31. 1 「岡山県企業局経営計画（2019～2028）」策定
- 令和 2年 2月 中国電力(株)と「おかやま水力電気活用プラン」に係る協定締結

◎企業局事業一覧



電気事業の概要

発電所名	場所	最大出力 (kW)	年間目標供給電力量 (千kWh)	運転開始年月
1 旭川第一	岡山市	18,700	96,059	S29. 2
2 旭川第二	〃	3,700		29.11
3 新見	新見市	10,900	30,592	38. 9
4 加茂	津山市	14,000	48,576	42. 1
5 黒木えん堤	〃	100	518	54. 4
6 越畑	鏡野町	200	863	57. 4
7 久賀	美作市	190	1,061	〃
8 倉見	津山市	660	3,100	58.11※
9 滝ノ谷	〃	120	293	59. 4
10 梶並	美作市	180	690	59. 7
11 阿波	津山市	360	238	61.11
12 寄水	真庭市	1,500	6,661	H3. 6
13 津川	津山市	360	1,678	7. 4
14 大町	鏡野町	1,200	4,626	9. 4
15 千屋	新見市	3,000	13,289	10. 8
16 真加子	真庭市	1,200	4,818	13. 4
17 苫田	鏡野町	4,600	22,884	17. 4
18 三室	新見市	460	2,574	18. 4
19 岡山空港	岡山市	3,500	3,600	25. 8
合計		64,930	242,120	—

※H29.10リニューアル

工業用水道事業の概要

区分	施設能力 (m <sup>3</sup> /日)	給水区域	給水工場数
A 水島工業用水道	708,000	倉敷市	60
B 笠岡工業用水道	49,700	笠岡市、里庄町	20
C 勝央工業用水道	4,200	勝央町	13
合計	761,900	—	93

太陽光発電システムの概要

設置箇所	場所	最大出力 (kW)	予想年間発電電力量 (千kWh)	運転開始年月
ア 発電総合管理事務所	岡山市	20	21	H19. 2
工業用水道事務所				
イ 西之浦浄水場	倉敷市	800	896	H15.2～H19.2
ウ 西阿知取水場	〃	4.5	4.8	H15.2
エ 鶴新田浄水場	〃	600	648	H18.2～H20.2
オ 笠岡浄水場	笠岡市	70	65.7	H18. 2
合計		1,494.5	1,635.5	—



人と水を活かす 企業局